青年招へい事業

中国

[交流レポート]

青年邀请计划

中国

[交流报告书]

JICA LIBRARY
J 1157311 [0]

1999

国際協力事業団

国内研
J R
00-07

05
36
PT
ARY

青年邀请计划 —中国—[交流报告书](1999)

2000年3月31日

发行 国际协力事业团国内事业部 研修业务课
〒151-8558 东京都涩谷区代々木2丁目1-1
新宿MAYNDS TOWER
电话 (03) 5352-5401~3
编辑 财团法人 日本国际协力中心 国际交流部
〒163-0489 东京都新宿区西新宿2-1-1
新宿三井大楼内
电话 (03) 5322-2571

未经许可不许转载。

信頼と友情への第一歩

走向信赖与友谊的第一步

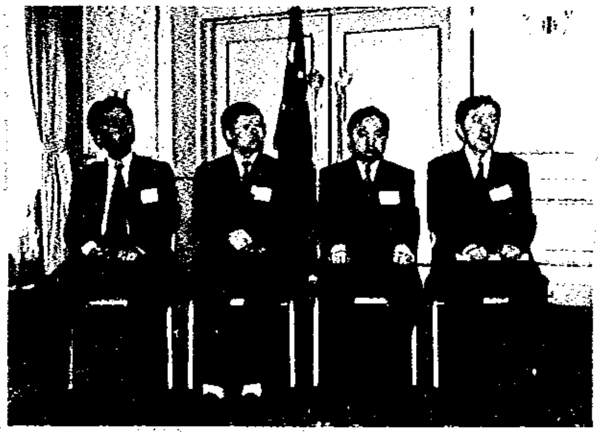
平成11年度新日中青年の友情計画／新中国実務者招へい計画／中国初等中等青年教員招へい計画

1999年度新中日青年友谊计划/新中国基层工作人员邀请计划/中国初等中等青年教员邀请计划

開講式
开幕式

これから始まるプログラムに緊張した面持ちの青年たち
青年们神情严肃地等待活动的开始

国際協力事業団より歓迎のあいさつ
国际协力事业团致欢迎词



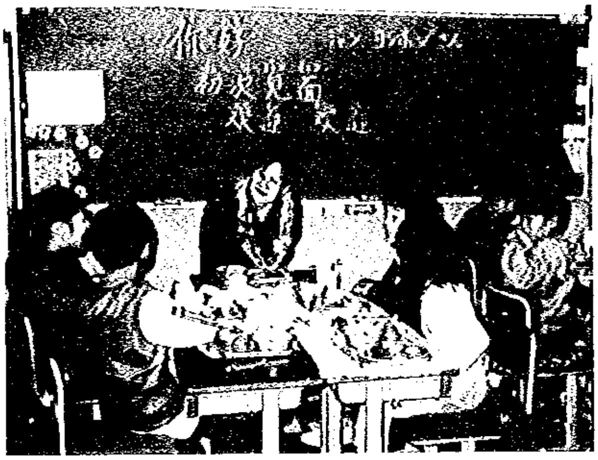
来賓のスピーチを聞く中国側各団長
中国各分团团长倾听来宾的讲话

共通プログラム
共同活动

よろしく！ どこへ行きましょうか?(体験的日本語学習)
请多关照！我们去哪儿？（实地日语学习）

日本語は簡単？ 難しい？(日本語学習)
日语简单？还是难？（日语学习）

分野別都内プログラム
分团都内活动



小学生と食事をしながら歓談
在校内与小学生共进午餐和交谈

講師から何かを学び取ろうとする姿勢は崩さない
全神贯注地听老师讲课

この経験、いつかきっと役に立つ
这一招迟早会用得上

合宿セミナー
合宿研讨会

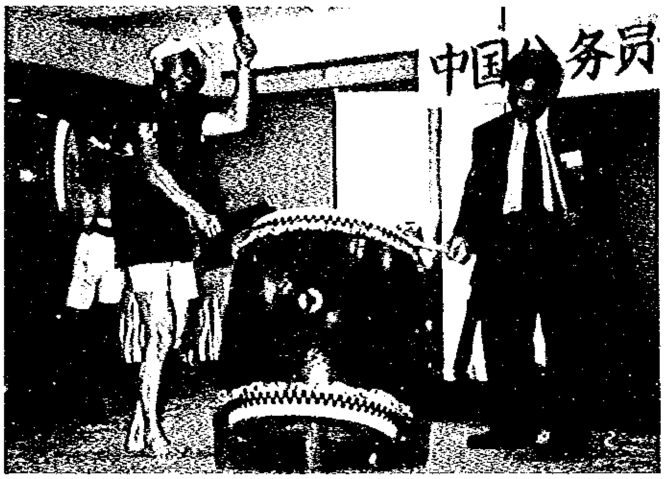
ディスカッションも活発に
讨论气氛活跃

思い出に仲良く記念撮影
为了美好的回忆　合影留念

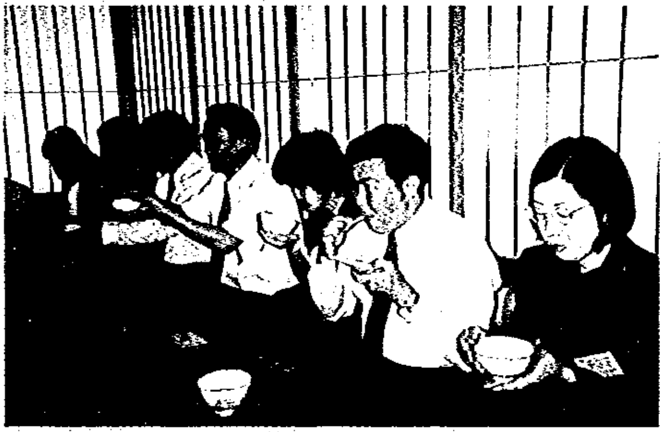
中国側青年に日本側青年から歌のプレゼント
日方青年向中方青年献歌

分野別地方プログラム
分团地方活动

初めての体験に目をシロクロ
初次体验 大开眼界



うまく叩けるかな
心里也有点“打鼓”？

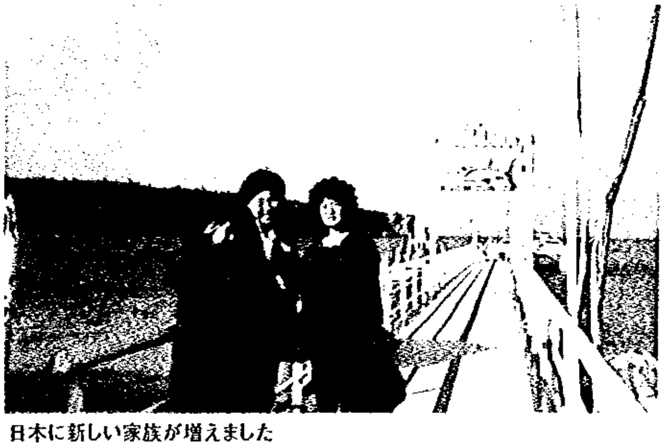


けっこうなお味で
味道好极了

ホームステイ
民宿活动

この思い出は一生の宝。いつかまた会いましょう
回忆将成为我们一生的财富，让我们再次相会！

着物、似合いますか？
你看我穿和服好看吗？



日本に新しい家族が増えました
在日本 我又多了新的家人

閉講式・歓送会
闭幕式・欢送会

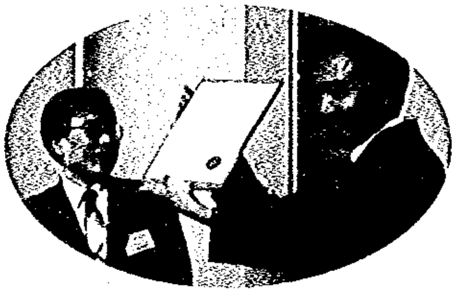
二度と忘れない、良き仲間と
难忘的朋友们

国際協力事業団より閉講のあいさつ
国际协力事业团致闭幕词

中国側団長による締めくくりのスピーチ
中方团长作总结发言

思い出を歌に代えて
回忆化为歌声

いつまでも盛り上がります
气氛始终热烈



記念となる参加証の授与
颁发证书作为纪念

1カ月間、どうもありがとう
谢谢！这一个月太愉快了

日本に来て本当に良かった
我们的访日太值得了

青年招へい事業

青年邀请计划

日本語編・日语篇 ……………………………………………………3
中国語編・中文篇 ……………………………………………………53

青年招へい事業

1157311 (0)

はじめに

「青年招へい事業」は、国際協力事業団（JICA）が開発途上国を対象に実施する技術協力の一環として、将来の国造りを担う青年を、専門分野別に約1カ月間招へいし、それぞれの専門分野について学ぶとともに、ホームステイ受入家族などとの幅広い交流を通じて相互理解を深め、信頼と友情を築くことを目的としています。

招へい国は当初アセアン6カ国のみでしたが、現在は120カ国以上にまで拡大し、昭和59年度に事業を開始して以来、16年間で日本を訪問した青年は19,819名に達しました。これはひとえに、関係各方面の皆様のご協力と温かいご支援によるものと、心からお礼申し上げます。

本報告書は、招へい青年、合宿セミナーに参加した日本青年およびホームステイを引き受けていただいた全国の家庭の皆様から寄せられた感想文を中心に、招へい青年の滞在記録をとりまとめたものです。本報告書が本事業のさらなる発展の指針となり、また皆様の良き思い出の一助となれば幸いです。なお、本報告書は今年度の全招へい青年および各国の関係者にも送付させていただく予定です。

最後となりましたが、心温まるご感想、ご意見をお寄せいただいた皆様ならびに関係者の方々に重ねてお礼申し上げますとともに、「青年招へい事業」がさらに有意義なプログラムとなりますよう、今後ともご支援、ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

平成12年3月

国際協力事業団
国内事業部
部長　今津　武

目　　次

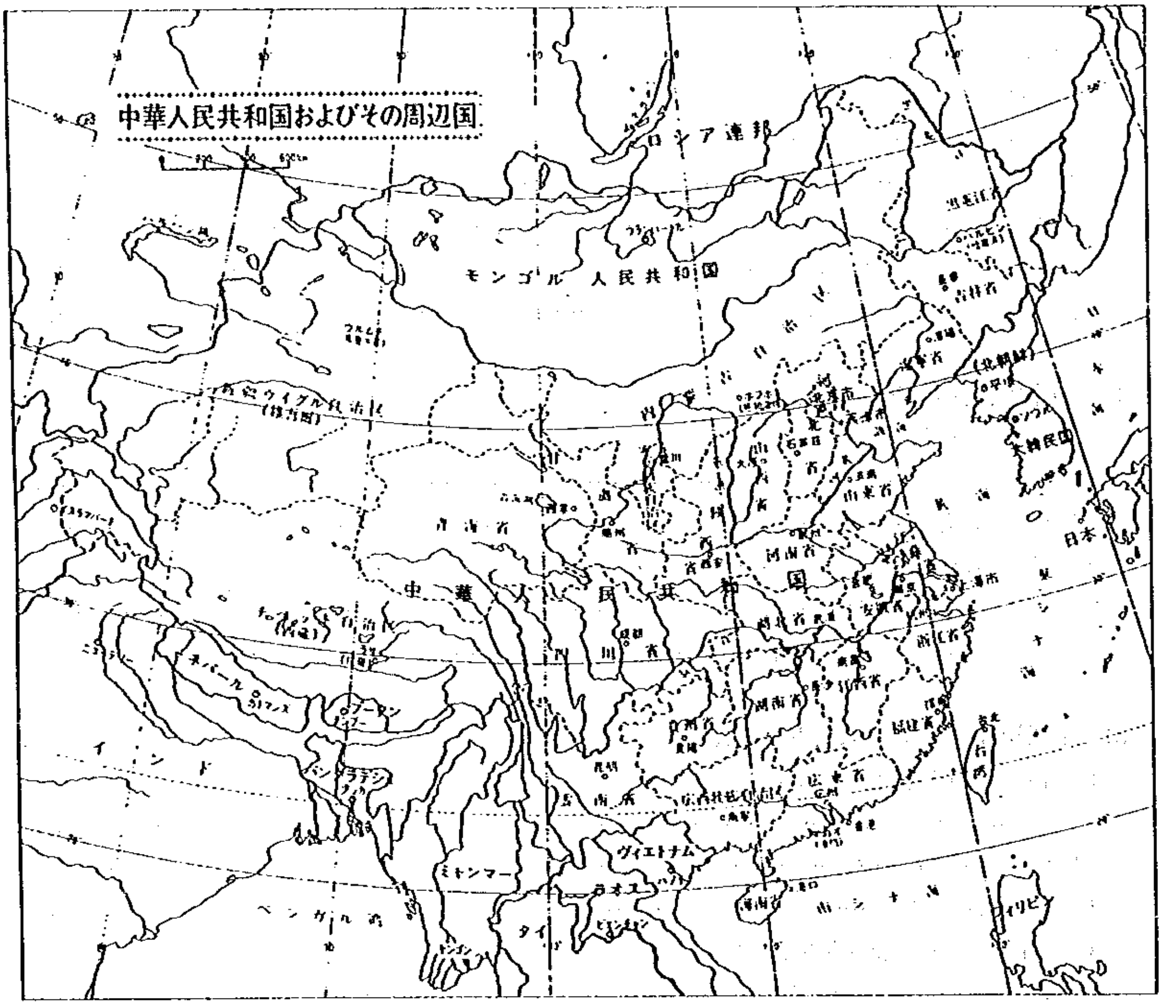
はじめに

I．新日中青年の友情計画
1．新日中青年の友情計画
1-1 概要……11
1-2 招へい実績……12
2．招へい青年の印象……15
3．合宿セミナー参加日本青年の声……17
4．ホストファミリーの思い出……19

II．新中国実務者招へい計画
1．新中国実務者招へい計画
1-1 概要……23
1-2 招へい実績……24
2．招へい青年の印象……27
3．合宿セミナー参加日本青年の声……29
4．ホストファミリーの思い出……31

III．中国初等中等青年教員招へい計画
1．中国初等中等青年教員招へい計画
1-1 概要……35
1-2 招へい実績……35
2．招へい青年の印象……39
3．合宿セミナー参加日本青年の声……41
4．ホストファミリーの思い出……43

実績資料
1．実績一覧
(1) 新日中青年の友情計画……47
(2) 新中国実務者招へい計画……48
(3) 中国初等中等青年教員招へい計画……49
2．平成11年度青年招へい実績一覧……50


中華人民共和国およびその周辺国
ロシア連邦
モンゴル人民共和国
中華人民共和国
青海省
四川省
河南省
山東省
福建省
広東省
雲南省
インド
ネパール
ミャンマー
ヴィエトナム
ラオス
タイ
ベンガル湾
日本
大韓民国

Ⅰ．新日中青年の友情計画

1. 新日中青年の友情計画

1-1 概　要

(1) 目的

「新日中青年の友情計画」は、日本と中国の青年の交流を通じ、21世紀に向けて、より良き未来と平和と繁栄を分かち合うために、相互理解と信頼を培うことを目的とする。

(2) 実施方法

ア　招へい人数

平成11年度は、100名を同時期に受け入れた。

イ　招へい対象者

下記分野における指導的立場にある20～35歳の青年。

(ア) 青年指導者　25名

青少年活動者及び関係者、大学職員、公務員、通訳。

(イ) 経済青年　25名

企業等役員・勤労者、公務員、団体職員、ジャーナリスト、経済学者。

(ウ) 公務員　25名

他の分野に該当しない一般公務員、団体職員。

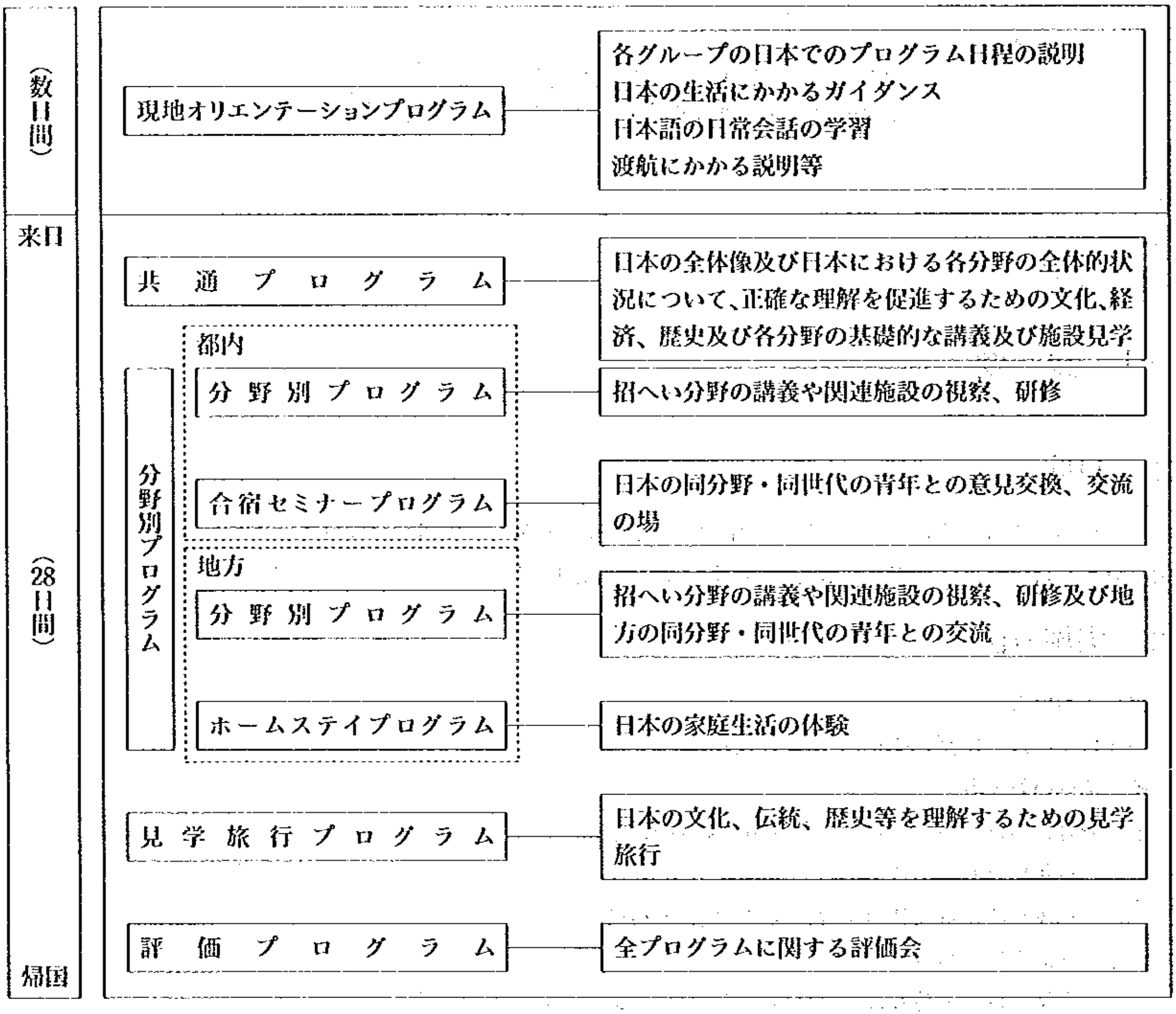
(エ) 教員　25名

教育関係公務員、教育関係団体教員。

ウ　招へい期間

5月19日から6月15日までの28日間。

(3) プログラム概要

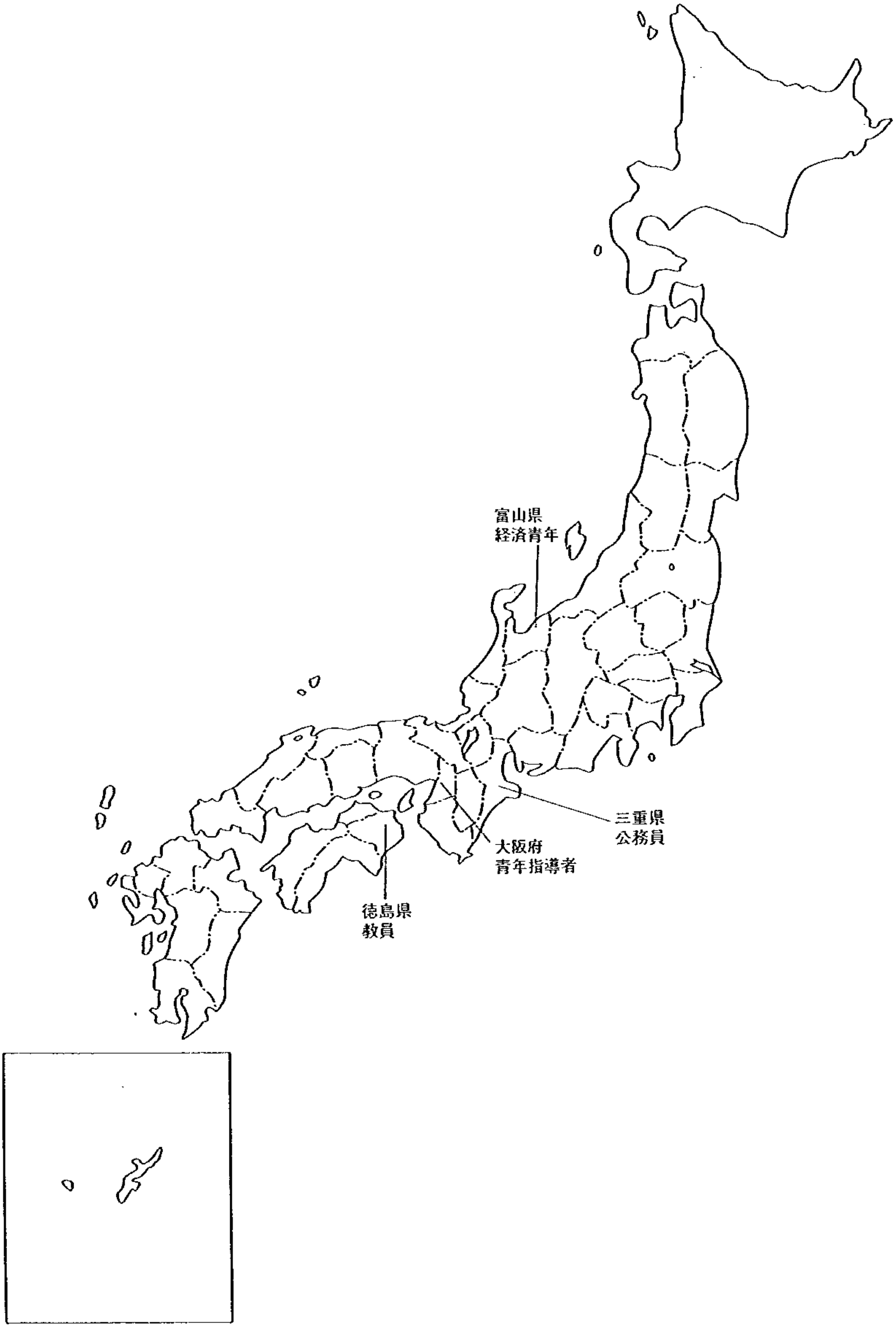


1-2 招へい実績

分野名	人数	実施協力団体	実施都道府県	地方実施協力団体
青年指導者	25	(社)青少年育成国民会議	大阪	(財)大阪府青少年活動財団
経済青年	25	(財)ユースワーカー能力開発協会	富山	(財)とやま国際センター
公務員	25	(財)日本ユースホステル協会	三重	(財)三重県国際交流財団
教員	25	(財)日本友愛青年協会	徳島	徳島県青年海外派遣の会

＊共通・評価プログラムについては、日本国際協力センターが全グループに対して実施した。

分野別プログラム実施都道府県



2. 招へい青年の印象

訪日成果を日中友好と中国の発展に活かそう

劉　為民
（青年指導者グループ）

約１カ月の日本訪問を通じて、日本の政治、経済、文化、教育、とりわけ日本の青少年事情および青少年活動への認識を深めることができた。

日本は経済がたいへん発達しており、国民が勤勉かつ善良であり、社会的財産もかなり蓄積されている。また、各種の社会的基盤が整備されており、生態への配慮などの環境保護もきちんと図られている。これらすべてが日本の更なる発展のためにしっかりした基礎を築いている。

日中両国は一衣帯水の間柄であるばかりでなく、アジア・太平洋地域の重要な国でもある。したがって、アジア・太平洋、ひいては世界の平和と発展に貢献する責任と義務を持っている。

私たちはこのたびの訪日を契機として、日本の青年とともに21世紀に向けた健全かつ安定した日中関係の構築のために積極的に努力し、また日本の成功した経験を持ち帰って、中国の各方面の発展を促すよう役立たせたいと思う。

富山を訪れて

郭　暁鷺
（経済青年グループ）

日本滞在中、最も心に残ったのは富山を訪れたことだ。富山でまず私の目に飛び込んできたのは、10数里も連綿と続く立山連峰である。幾層にも積もった雪は、日の輝きに照らされまばゆいばかりに目に染み入り、みずみずしい木々の緑は、静けさと安住をもたらす。庭先のツツジはつややかな彩りを添え、市内を流れる神通川では魚がそこかしこに泳ぎ、街の所々に置かれた彫刻が人々に語りかける。美しいまちづくりにかける人々の意気込みと努力に、私は強い感動を覚えた。

日本人の社会や人類に対する強い責任感や使命感は、私たちの心を強く揺り動かした。縁あって富山を訪れ、企業見学やホームステイなど、行く先々で人々の熱い心に触れた。短い期間ではあったが、交流を通じてより多くの日本人に中国を理解していただき、同時に人々、特に青年の日中友好に対する理解と支持、ならびに、世界平和へのあくなき追求を深く感じさせられた。

日中友好よ、永遠に、と心から叫びたい。

日本の経験と教訓を参考に

欧 順清
(公務員グループ)

約1カ月の訪日は印象深いものだった。

講義を聞き、日本の公務員の管理制度、管理方法、オープン型の政治と行政、定期的人事異動、世論による監視と厳正な罰則について詳しく知ることができた。

特に、日本政府が経済・社会の発展のために、必要に応じて常に政府の機能と機関を調整しながら、公務員の能力の向上と仕事の効率化を図り、経済の高度成長を成し遂げた経験はたいへん参考になった。

3日間の合宿セミナーで、日本青年の考え方、価値観を知ることができ、両国青年の友情を深めた。そして、経済・社会を向上させ国民の生活水準を向上させることは、両国の青年の果たすべき責務であるという共通認識をもつことができた。

三重県でのホームステイを通して、一般的な日本の家庭の様子、家族構成、仕事と家事の分担の仕方、生活水準、日本人の生き方、日本の国民が中国国民に対してたいへん友好的であることなどが分かった。

視察旅行では、日本の歴史、風俗、都市建設、現代的マナー、環境保護について、理解できた。短期間の訪日だが、とても印象的だった。特に、経済、行政管理、都市建設と環境保護等の面における日本の経験と教訓は、中国にとって大いに参考になるだろう。

大橋、渦潮、鳴門

文 潔民
(教員グループ)

雄大な鳴門大橋が両岸をまたいでいる。その大橋が荒海や地震に耐えられるのは、堅実な橋脚が岩盤に深く根を下ろしているからだ。私は大橋に立ち、日中両国青年の間にも〝友情の大橋〟がかけられ、またそれが試練に耐えられるのは、私たちの心の中に友情が深く根を下ろしているからだと強く感じている。

大橋の下には広大な海がある。うねりが次から次へと押し寄せ、渦潮が逆巻き、私の気持ちもそのうねりのようにだんだん高揚していく。徳島では、両国の青年が交歓の海に浸っていた。その渦潮は確かに私たちの感情の渦巻きだった。

〝鳴門〟という2文字は、中国語でそれぞれ〝響く〟と〝扉〟という意味だ。言葉は通じなくても、心が通じ合っている。一つの声が両国青年の心の中で共に響いている。

「一緒に21世紀の扉を開けよう」と。

3. 合宿セミナー参加日本青年の声

心に残る交流をありがとう

増田　勝
（学生）

中国の青年指導者グループとの合宿セミナーに参加し、たくさんの中国青年と交流ができたと同時に大勢の日本青年の考えに触れることができて、私は、いろいろな意味で勉強になった。

今回私は、〝在日中国人〟という私特有の視点から、〝中国（日本）青年が思う日本（中国）〟に興味を感じて参加した。

合宿セミナーでは、日中の青年のお互いの印象はもちろん、自分たちの関心のあるテーマについても盛んに意見交換が行われた。特に、〝コソボ問題〟〝ガイドライン法案〟〝日米中の相互関係〟〝中国の環境問題〟等のテーマでは、両国の青年が熱くなり、夜遅くまで討論が続いた。テーマによっては結論こそ出なかったが、日中双方の青年にとって、心に残る交流ができた。

日中の友好関係は、国際関係の中でも非常に重要なことだと思う。今回のような若者の意見交換が、また日中の相互理解を深めるという意味では、役立つだろう。

グループ別討論での一幕

藤井　秀樹
（公務員）

通訳の烏蘭さんに訳されて、「転職は中国ではあまり珍しいことではありませんよ」という言葉が私たちの耳に伝わると、私たちは意外そうな声を上げた。グループ別討論での出来事だ。すぐさま、「退職金はどうなるの」「年金は」と質問が投げかけられた。

中国側参加者は責任ある立場の人が多く、若くて才色兼備の副社長である張さんは、「中国では転職経験が正当に評価されるのです。私たちも数度の転職を経験しています」と答えてくれた。

このような彼らの行動力が１カ月にも及ぶ日程を通じてさまざまなことを吸収しようという意気込みにつながっているということを実感した。

討論を終えて、私たちの目には中国の人たちがますます頼もしく見えた。

社会の中の教育

福永　佳史
（学生）

突然の紹介を受けて、中国人教員グループを迎えた合宿セミナーに参加した。

教育に関わるいくつかのテーマを設定したセミナーが３日間にわたって行われた。その中で私の関心をひいたのは、社会教育と道徳教育であった。

中国人側は学校・社会・家庭の教育における分担について関心を持っていた。日本が高度成長した理由をその中から見つけようとしていたのだが、私に

は日本に欠けている視点が見いだされたように思われた。日本では生涯教育ということが流行語のように頻繁に使われているが、教育を教育委員会や行政に任せっきりにしていないだろうか。

教育は学校やカルチャースクールの中だけでは終わらない。一家庭人、一社会人として、私たちに何ができるのか、何をすべきか、三者それぞれの長所・短所は何か、若い世代はそれらのことに高い意識を持たなくてはならないと思う。

また日本にも通じるものがあるが、中国人側は学校の道徳教育にも興味を持っていた。小皇帝（一人っ子政策によって甘やかされて育てられた子供）に手を焼く中国においてはこれも一つの大きな問題であった。ひるがえって、わが日本では「キレル」学生・「学校崩壊」、道徳に問題なしではない。

「学校の教育が悪い」「家庭のしつけが悪い」。どちらにせよ、すべての人が積極的に関わるべき問題であることは間違いない。

中国人教員グループのような意識が日本人にあるだろうか？　私は日頃、アイセックという学生団体で中国人学生と接する機会があるが、今回は社会人、そして学生からの距離がある程度近い人と共に時間を過ごすことで、また違った視点を学ぶことができ、非常に有意義であった。

その中で、教育を専門にしてはいないが、実際に高等教育を受ける立場にある学生として、彼らの底知れぬ興味や関心を少しは満たすことができたと思う。

ただ、もう少し勉強をしていればもっと素晴らしい経験になったのではないかと思うと、残念だ。

4. ホストファミリーの思い出

もっと知りたい中国のこと

森脇　裕美子
（大阪府）

「时间过得真快」

本当に時間の過ぎるのが速かった。筆談をしていても通じないこともあり、辞書などを使っての会話だが、2泊3日の時間は、いろいろなことを話すには短かった。

何をどう話せばいいのか見当もつかず緊張していた私たちに、優しい心遣いをしてくださった王さん。何を食べても日本語で「おいしい」を連発していたことが忘れられない。

私は、嵐山に周恩来氏の記念碑があることを、初めて知った。たくさんの中国の人たちが周恩来氏を慕って来訪していることが、落書きから窺え、周恩来氏が中国の人たちにとってどれほど大切な人なのかを感じた。

王さんが教えてくれた水餃子の作り方をなんとかマスターしたいと思っている。王さん、今度、家族と一緒に食べに来てください。

ジョン・ファンから学んだこと

覚王　真紀
（富山県）

私にパワフルな姉ができた。名前は、桜。

日本名をつけてほしい、とジョン・ファンさんから言われ、家族皆で話し合って決めた。

彼女は、明るくて元気で物怖じせず、与えられた機会に積極的にチャレンジする。何かを学び取ろうという一生懸命に取り組む姿は、私と対照的だ。彼女と出会って、「何でもやってみなければ分からない。結果を気にせず頑張ろう」と思えるようになった。

私が将来の夢について弱気な発言をした時、彼女に「まだ若い、これからだよ。周りに押しつぶされてはダメ。努力すれば夢は必ずかなうよ」と励まされ、私の心は夢でいっぱいに膨らんだ。

今回ホームステイを受け入れたことで、私は多くのことを学び、感謝している。

中国公務員訪日青年団を迎えて

中島　吉雄
（三重県）

このたび、中国公務員青年団一行の三重県への訪問にあたり、わずか2泊3日だがホームステイをわが家で引き受け、私たちも貴重な経験をした。

一行の歓迎会の席では、お互いに初対面であり、言葉の壁も厚く、やや緊張ムードであるのはやむを得ないことと思った。

しかし、ホームステイの後の送別会は、初めから

親密な雰囲気にあふれ、会場ではさかんな交歓談笑、そして日本の歌の大合唱と固い握手で終わり、大成功だった。

わが家に来られた王さんは、とても明るく闊達な青年で、短い滞在期間ながら、心の触れ合いが十分できて、お互いに忘れられないよい思い出ができたと思っている。

このたびの経験を通じて思うこと、そして私が常日頃感じていることは、〝親善交流はまず会話から〟ということだ。特に日本と中国は〝一衣帯水〟の間柄であり、歴史的には言うに及ばず、将来的にも最も親密であるべき相手国である。日本人は中国語を、中国人は日本語を、もっともっと多くの人が学ぶべきだと思う。

またこのような企画をより充実されることを希望している。

II．新中国実務者招へい計画

1. 新中国実務者招へい計画

1-1 概 要

(1) 目的

「新中国実務者招へい計画」は、日本と中国の実務者の交流を通じ、中国の近代化建設を支援するとともに、21世紀に向けて、より良き日中の協力関係を構築するために、相互理解と信頼を培うことを目的とする。

(2) 実施方法

ア 招へい人数

平成11年度は、100名を同時期に受け入れた。

イ 招へい対象者

以下の分野の指導的立場にある20～35歳の青年。

(ア) 人材育成 25名

公務員、教員、団体職員、ジャーナリスト、等。

(イ) 経済開発 25名

経済関係公務員、企業関係者、等。

(ウ) 地域振興 25名

省・自治区政府の地域開発関係者、団体職員、等。

(エ) 産業基盤整備 25名

国家計画、建設、貿易・財政関係公務員、等。

ウ 招へい期間

10月13日から11月9日までの28日間。

(3) プログラム概要

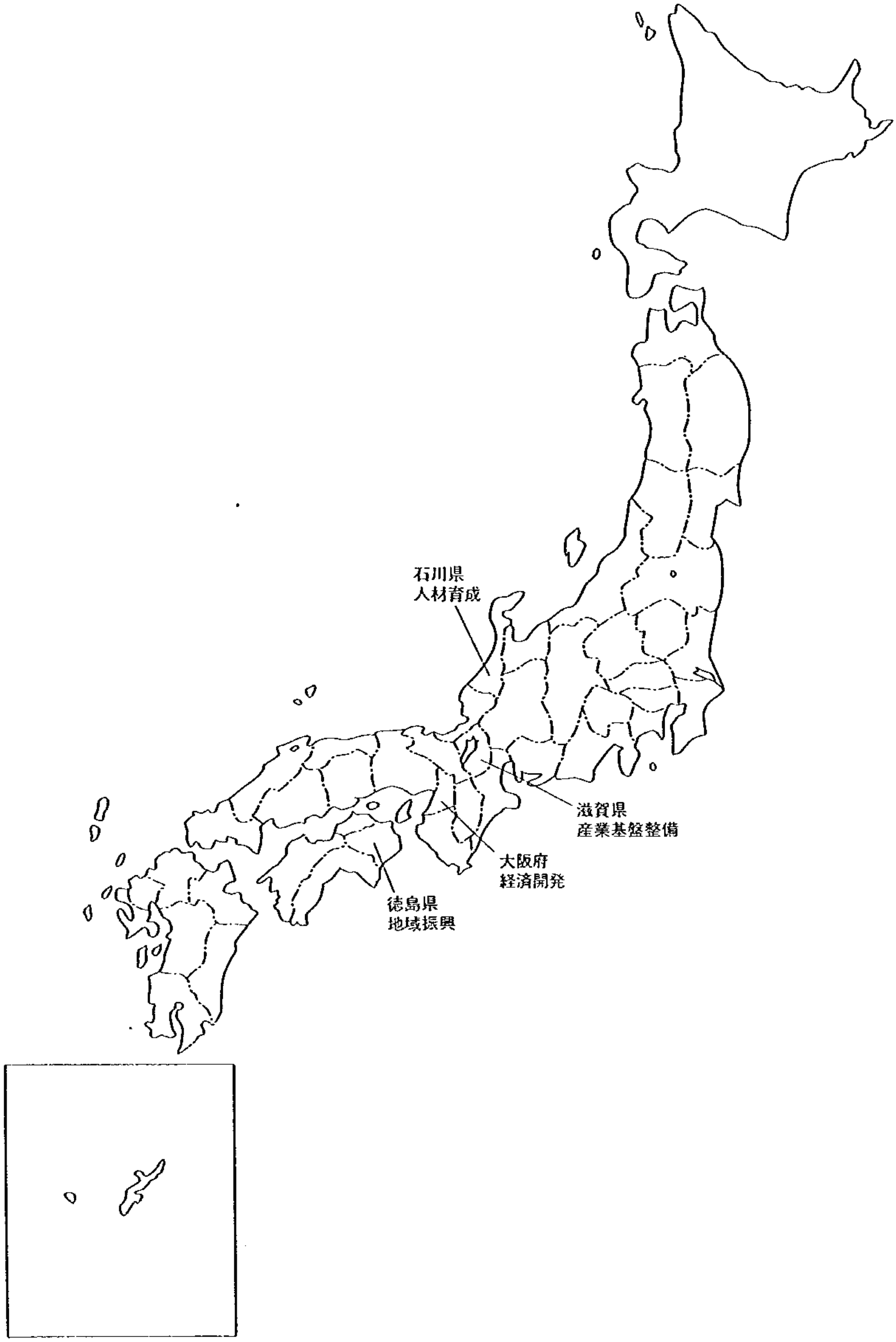
期間	プログラム		内容
（数日間）	現地オリエンテーションプログラム		各グループの日本でのプログラム日程の説明 日本の生活にかかるガイダンス 日本語の日常会話の学習 渡航にかかる説明等
来日	共通プログラム		日本の全体像及び日本における各分野の全体的状況について、正確な理解を促進するための文化、経済、歴史及び各分野の基礎的な講義及び施設見学
（28日間）	分野別プログラム	都内　分野別プログラム	招へい分野の講義や関連施設の視察、研修
		都内　合宿セミナープログラム	日本の同分野・同世代の青年との意見交換、交流の場
		地方　分野別プログラム	招へい分野の講義や関連施設の視察、研修及び地方の同分野・同世代の青年との交流
		地方　ホームステイプログラム	日本の家庭生活の体験
	見学旅行プログラム		日本の文化、伝統、歴史等を理解するための見学旅行
帰国	評価プログラム		全プログラムに関する評価会

1-2 招へい実績

分野名	人数	実施協力団体	実施都道府県	地方実施協力団体
人材育成	25	(社)青少年育成国民会議	石川	(財)石川県ユースホステル協会
経済開発	25	(社)勤労厚生協会	大阪	(財)太平洋人材交流センター
地域振興	25	(財)ユースワーカー能力開発協会	徳島	徳島日中青年交流協会
産業基盤整備	25	(社)国際善隣協会	滋賀	滋賀県青年団体連合会

＊共通・評価プログラムについては、日本国際協力センターが全グループに対して実施した。

分野別プログラム実施都道府県



2. 招へい青年の印象

訪日の感想

郭　慶
（人材育成グループ）

あっという間に28日間の日本訪問が終わった。

日本滞在中、日本の先進的で発達した交通、通信、文化教育施設に驚き、また日本の人々のまごころ、友好の気持ちと就業意識の高さ、節度のある態度に感動させられた。

日本は、人の価値を理解し、重視することによって、社会全体の系統化された教育機能と資質の高い国民を作り上げた。

〝会社主義〟がもたらした社会のコンセンサスや国民の勤勉さと団結の意識が印象深い。

ハードだが充実した研修活動、豊富で多様な見学や交流、特に２日間のホームステイは打ち解けた温かい友情が満ちあふれていた。自らの体験と受けた感銘は、短い28日間の記憶の中で忘れ難く、素晴らしく美しい思い出になった。両国国民が引き続き仲良くし、絶えず理解と友情を深め、先人の偉業を受け継ぎ、将来の発展に道を開いて、共に21世紀に邁進していくことを心から願っている。

正真正銘の交流

左　鋒
（経済開発グループ）

国際交流の形は多種多様にある。JICAの青年招へい事業は、私に日本を直接体験する機会を与えてくれた。日本の各界の専門家との交流や、企業、名所旧跡などの見学、さらに合宿セミナーでの日本人と寝食を共にしての意見交換などを通じて、日本の政治や社会、文化を深く知ることができた。これが本当の意味での交流だと思う。

人と人と、そして国と国との相互理解には交流が大きな役割を果たす。日中両国は一衣帯水の隣国として2000年にわたる交流の歴史を有しており、これまでにも数多くの感動的な友好物語を記してきた。

確かに両国間には、まださまざまな誤解や懸念があるが、誤解を解き、共に友情を築いていくことが、私たち青年の果たすべき責任である。長い歴史の中では、１カ月という時間はほんの一瞬にしか過ぎない。だが、この１カ月は私に消すことのできない思い出を刻み込んでくれた。

日本よ、私は好奇心をもってあなたを訪れ、そして大きな収穫と友情を携えてあなたと別れる。

またあなたに会える日を心から待ち望みながら……。

訪日の感想

馬　立新
（地域振興グループ）

私は一番よい季節に日本を訪問でき、さまざまな印象と大きな収穫を得られたことは幸運だった。

まず私たちは、地域振興分野の研修を通して、日本は都市開発や区画整理などの企画の段階において、住民の意思を尊重し、それを実現させるように住民主体の開発を進めていることに深く興味をもった。これは人々の生活水準を高めるために、今まさに都市化を計画中の中国にとって参考になることがたくさんあると思う。

次に、日本の農家でのホームステイを経験して、日本の農村の豊かな生活水準に驚いた。

日本政府は農家を助け、農民の利益を守り、都会と農村の格差を縮めるために、たくさんの有効な対策と方策を講じていると感じた。

そしてまた、日本国民の環境保護に対する認識と集団主義の観念、献身的な就業精神などが、私に深い印象を残してくれた。

日中両国の友情が末永く続くことを心から祈っている。

交流を通じて友情を深める

王　恬
（産業基盤整備グループ）

このたび、JICAの青年招へい事業により産業基盤整備グループの一員として来日できたことに感謝したい。

日本に滞在している間、日本人と直接交流したほか、日本の産業基盤整備に関する管理方法や、見学等を通して日本の進んだ科学技術を学んだ。

私たちは覚えたばかりの日本語を使って、日本人青年の案内で体験的日本語学習をしたり、合宿セミナー、さらに滋賀県でホームステイを体験した。

これらの活動で、日本を認識し、特に日本人家庭で受けた至れり尽くせりの気遣いには感動させられ、私たちの日本観がある程度変わったと言っても過言ではない。

このような交流により、日中両国国民の相互理解と友情を深めることができた。

また、コーディネーターの献身的な仕事ぶりから、日本の公務員の素晴らしさまで知った。仕事に対する真摯な姿勢と強い責任感、奉仕の精神が印象的で、学ばなければならないと思った。

日本の交通の便利さ、清潔で美しい環境、よく整備されているインフラ施設等が印象的で、普段は気づかない日本と中国の差が分かるようになった。

3. 合宿セミナー参加日本青年の声

中国青年団を迎えて

岡田　道樹
（団体職員）

「お誕生日おめでとう、老朋友！」

思いもかけないことだった。偶然にも私は、合宿セミナー期間中に誕生日を迎えた。しかも一生忘れられない記念日として、大勢の〝老朋友〟の祝福を受けたのだ。

日本人同士でも打ち解けるまでには時間がかかるものだが、国籍・言葉の違う人間同士がどこまで深い交流ができるのであろうか。こんな心配も杞憂に過ぎなかった。寝食を共にし、朝から夜遅くまで語り明かし、3日目には10年来の朋友のように大騒ぎをするに至った。

国境を超えて〝青年〟という共通項で結ばれることは可能である、と参加者すべてが実感しただろう。このような素晴らしい機会を与えてくださったスタッフの皆様、本当にありがとう。

合宿セミナーに参加して

石崎　力
（公務員）

皆さん、お元気ですか。

今回の合宿セミナーに参加させていただき、楽しい思い出がたくさんできた。

私が中国について興味をもったのは、以前読んだ魯迅の作品がきっかけだった。その後も折に触れて本やテレビ、映画等を通して中国に接してきた。なんとか中国の人々と話をしてみたい、と思っていた矢先だったので、この合宿セミナーはまさに〝渡りに船〟だった。

合宿セミナーに参加してつくづく感じたのは、実際に中国人の方々と触れ合うことにより、今まで以上に中国に対しての興味が増してきたことだ。中国語を話せたら、と歯がゆい思いもしたが、皆様のおかげで楽しく過ごすことができた。

今回の合宿セミナーで出会えた人々とこれからも交流を続けていけたらいいな、と思っている。

違いを見つけることの難しさ、楽しさ

山崎　優理
（団体職員）

「通常、私たちは交流をする時、自分たちと似たものを見つけようとするのだが、相手のことを正確に理解するためには些細なことでもできる限り、自分たちとの違いを見つけるように」という、合宿セミナー2日目の異文化交流の講義があった。

実際、私の接し方も、仲良くなりたいため、当たり障りのない話から入り、女性同士の共通点などを発見すると、やっぱりそうよね、という感じで妙にうれしくなって、それだけで満足してしまう。

一方で、仕事の内容などの話題から、日本の女性の労働条件の質問を受け、中国との待遇の違いや、家庭における役割など社会体制の違いがあり、日本のほうが遅れているような気がした。

時間の関係もあり、突っ込んだ話はできなかったが、話の奥にある背景について興味がわき、冒頭の講義の内容の根拠が理解できた。

4. ホストファミリーの思い出

小さな外交

新保　三枝
（石川県）

このたび初めてホームステイ受け入れの経験をさせていただいた。非常に不安だったが、中国の青年を迎えに行った娘たちと笑いながら話している声が玄関先で聞こえた時には、不安がいっぺんに吹き飛んでしまった。

わが家に来た青年はとても陽気で美人で、家族ともすぐになじみ、ほとんど英語での会話だったが、娘が仲介役となり、食卓を囲んで夜更けまで話し込んだ。

本人の希望もあり、滞在中はできるだけ金沢の文化にふれていただこうと思い、友禅の作業工程の見学、武家屋敷、兼六園、着物の試着、と、どれも興味をもっていただけたようだ。

幸いなことに、たまたま娘の義父の能を観賞する機会があった。長い演目だったので中座することも考えていたが、非常に興味深かったようで、最後まで見たいと言われ、最後まで観賞した。何かを感じ取っていただけたなら、うれしいことだと思っている。

この３日間、家族の一員のように過ごせたのは、青年の明るい性格によるものだった。それよりも何事にも積極的な姿勢には見習うべきところがたくさんあった。分からないことがあると理解するまで何度でも聞き返す、そして理解した時の喜びの表情、何に対しても好奇心旺盛で、真剣に学ぼうとする態度には頭の下がる思いがした。

食事の量が非常に少なく、とても気になったが、食生活を通して中国の現在の生活内容をほんの少し垣間見たような気がして、日本の飽食を反省した。粗食と質素さが印象的で、私も見習いたいと思う。

３日間、私の家族がそれぞれの立場で青年と交わり合えて本当に幸せだった。生まれた国は違っていても同じ人間として手をつなぎ、ほんの小さな外交かもしれないが、この輪が広がり、みんなが平和で心豊かな生活ができることの素晴らしさをこの機会を通して痛感した。

ありがとうございました。

「飲水思源」の思いで日中の心の架け橋

竹下　里美
（大阪府）

日中国交正常化25周年という記念の年に、中国の青年、沈さんのホームステイを受け入れさせていただいたことに感謝している。そして今回で２回目となったホームステイ受け入れを通して、言葉は理解し合えなくても、心は通い合う、ということも痛感した。

ホームステイ受け入れが決まると、小学生と中学生の姪と甥が二人で相談して、中国語で歓迎の意の垂れ幕を作成し、中国語で会話をしようと勉強したり、心待ちにしながら準備をしている姿を見て、私以上に、21世紀を担う青年たちに素敵な思い出が心に刻まれるのではないかと思い、とてもうれしくなった。

２泊３日という短い滞在ではあったが、日本の文化に少しでも触れていただければと、姪の日本舞踊をビデオで披露したり、お茶会を開いたりもした。現在、中国で踊りのレッスンに通っているという沈

さんは、姪の日本舞踊にとても感動した様子で、そのビデオをおみやげとしてプレゼントさせていただいた。

お料理が大好きという沈さんから、水餃子の実演をしていただき、その作り方をマスターした甥は、その後何回か、得意げに家族のために作ってくれた。素晴らしい文化交流をさせていただいた。

故・周恩来首相がかつて「飲水思源」（水を飲む前に井戸を掘った人のことを忘れるな）といわれたそうである。日本には、中国から伝わってきた素晴らしい文化がたくさんあり、中国は〝文化の大恩人〟の国である。その感謝の気持ちをいつも忘れないで、これからも日中友好、そして世界中の人たちと対話をしながら、人間としての心の交流を深めていきたいと思う。

素敵な交流の機会をくださった、太平洋人材交流センターの皆様に感謝申し上げたい。ありがとうございました。

大陸に咲いた花

渡邉　由美子
（徳島県）

王秀君さん、彼女は正に〝大陸に咲いた花〟だった。外交官として活躍している王さんは、語学力と豊かな教養の持ち主で、今回の中国青年団のリーダー的存在として団員から信頼されていた。

王さんからは外交や中国の少数民族の話を聞き、そして教育の話は王さんと私とお互いに熱が入り、充実した時間を過ごすことができた。

そんな王さんだが、一人娘や家族の話になると顔がほころび、一人の女性としていろいろな表情を見せてくれた。

わずか２泊３日の短いホームステイではあったが、王さんからはプロの女性としての姿勢、そして家族に対する思いやりなど、たくさんのことを吸収することができた。

この貴重な体験と素晴らしい出会いに心から感謝している。

III. 中国初等中等青年教員招へい計画

7. 中国初等中等青年教員招へい計画

1-1 概　要

(1) 目的

「中国初等中等青年教員招へい計画」は、日本と中国の初等中等教育機関の教員の交流を通じ、21世紀に向けて、青少年交流の一層の発展のために、相互理解と信頼を培うことを目的とする。

(2) 実施方法

ア　招へい人数

平成11年度は、120名を同時期に受け入れた。

イ　招へい対象者

下記分野における指導的立場にある20～35歳の青年。

(ア) 小学校教員　48名

(イ) 中学校教員　24名

(ウ) 高等学校教員　48名

ウ　招へい期間

11月24日から12月21日までの28日間。

(3) プログラム概要

（数日間）	現地オリエンテーションプログラム	各グループの日本でのプログラム日程の説明 日本の生活にかかるガイダンス 日本語の日常会話の学習 渡航にかかる説明等
来日		
（28日間）	共通プログラム	日本の全体像及び日本における各分野の全体的状況について、正確な理解を促進するための文化、経済、歴史及び各分野の基礎的な講義及び施設見学
	分野別プログラム（都内）分野別プログラム	招へい分野の講義や関連施設の視察、研修
	分野別プログラム（都内）合宿セミナープログラム	日本の同分野・同世代の青年との意見交換、交流の場
	分野別プログラム（地方）分野別プログラム	招へい分野の講義や関連施設の視察、研修及び地方の同分野・同世代の青年との交流
	分野別プログラム（地方）ホームステイプログラム	日本の家庭生活の体験
	見学旅行プログラム	日本の文化、伝統、歴史等を理解するための見学旅行
	評価プログラム	全プログラムに関する評価会
帰国		

1-2 招へい実績

分野名	人数	実施協力団体	実施都道府県	地方実施協力団体
小学校教員1	24	(社)勤労厚生協会	鳥取	とっとり青友会
小学校教員2	24	(財)日本ユースホステル協会	宮城	宮城県ユースホステル協会
中学校教員	24	(社)青少年育成国民会議	沖縄	(社)沖縄県青少年育成県民会議
高等学校教員1	24	(社)青年海外協力協会	愛媛	愛媛県青年海外協力協会
高等学校教員2	24	(財)世界青少年交流協会	長崎	長崎県世界青年友の会

＊共通・評価プログラムについては、日本国際協力センターが全グループに対して実施した。

分野別プログラム実施都道府県

2. 招へい青年の印象

特色に富む向小学校

李　博
（小学校教員１グループ）

12月２日に、私たちグループ全員は見学交流のために、浦和市立向小学校を訪れた。向小学校はとても特色のある小学校で、私たちに強い印象を残した。教室はオープン・半オープン形式で、学年ごとの教育方式を採用し、児童一人ひとりの長所を引き出すよう工夫している。算数の授業では、児童の基礎を強化すると同時に、児童の個人差に応じ、いくつかの段階に分けて教育を行っていた。

また学校は、各施設（放送室、講堂、音楽室等）を活用し、たとえば壁や廊下などのスペースを利用して図工作品展等が開かれるなど、積極的に各種の活動をしていた。これらの活動を通し、児童のやる気を呼び起こしていた。

私は、向小学校は教育の質が高く、教師が献身的で、児童のはつらつとした個性が十分引き出された、素晴らしい小学校であると思った。

１カ月の思い出

小学校教員２グループ全員
（小学校教員２グループ）

私たちが日本に来てから１カ月が過ぎようとしている。この28日間、JICA、日本ユースホステル協会、宮城県ユースホステル協会の心のこもった手配によって、国立民族学博物館、明石海峡大橋、宮城県立図書館、仙台市科学館などを見学し、教育の歴史と現状に関する講義を受け、中学校や小学校を訪問して授業参観や教員との交流を行った。

合宿セミナーやホームステイを通じて、さまざまな角度から、またさまざまなレベルから日本の教育の現状を知ることができた。そして、日本の美しい景色を堪能することもできた。

松島の美しい風景、仙台の人々の純朴さと優しさ、日本青年の活発さと情熱は、私たちの心の中に永遠に留まるだろう。

しかし一方で、大阪での日本語学習、東京での滞在期間、一部の講義等、少しだけ満足できなかったところがあるものの、このプログラムが楽しい思い出となることに変わりはない。

日本の印象

藍　育新
（中学校教員グループ）

発達した経済とハイテクを取り入れた教育の行われている国、これが私たちが見聞した日本である。

JICAの手配のもとに、私たちは教育視察や一連の講義によって、日本社会と教育の現状について理解した。

また、明石海峡大橋、原爆資料館、海洋博公園等観光施設の見学、さらに沖縄教育センター、JICA沖縄国際センターなどの教育施設の視察を通して、日本が経済発展と同時に教育の発展も成し遂げたことことを痛感した。

ハイレベルの教育施設と進んだ科学技術が物語っていることは、〝富国強民〟のためには、まず教育を振興しなければならないという戦略的意識である。

そして、合宿セミナーとホームステイは特筆すべきものだった。これらの交流を通じ、日本人の家庭に入り、日本人の日常に近づき、とりわけ沖縄の人々の情熱と素朴さに触れることができ、忘れ難い印象が残った。

理解の促進と友好を深めること

張　愛民
(高等学校教員1グループ)

今回の日本での研修訪問で、たくさんの収穫を得た。日本各地での見学と講義を通じて、日本全体の様子や、特に教育状況について、理解を深めることができた。

プログラムの中には、学校訪問や日本青年との合宿セミナーもあり、たくさんの日本の中学校教員の方とお会いでき、両国の教育について幅広く話し合い、交流を深めた。日中双方で感じたことがあった。それは、両国それぞれの国の事情が違うため、教育面での問題も相違する点がある。そのことをお互いに勉強し合い、参考にし合うべきではないかということに気づき、相互理解は非常に大事なことだと分かったことだ。

さまざまな交流を通じて、日中両国の青年は、すぐに仲のよい友達となった。

そして、愛媛県でのホームステイでは、私たちは日本の一般家庭に入り、自ら日本人の生活を体験し、ホストファミリーとの間に深い友情を築くことができた。このことも忘れられない経験となった。

内面重視、未来志向

江　匯
(高等学校教員2グループ)

中国でも日本でも私は、見たとおりの、ありのままに生長している一本一本の木が好きである。日本では大都会から遠く離れているところで、たくさんの人々が木のように自然な状態を保ち続けていることを感じた。紙細工の芸術家・水野先生、ホームステイ先の鹿町町の純粋素朴さ、そして友情に厚い人々が印象深かった。彼らは、山や川と調和を保ちつつ、一体となっている。彼らの明るくて開放的で、穏やかで優しい心のあり方が、対話を可能なものにした。

私は鹿町中学校で、唐詩について簡単な解説をしたが、生徒たちは字句の裏にあるものをあまり理解できていないように感じた。しかし私は、日本の先生方が、生徒がより深く理解できるように努力されていることを信じている。

中国では、古典文学を通して子供たちの健全な情感やよりよい人間性を育てていくことに、多くの親や教師が成功している。いかなる科学や芸術もその深いところにおいては、人々の内面につながるものであり、日中両国の教師たちが、人類文明のために貢献できることを心から祈っている。

3. 合宿セミナー参加日本青年の声

再見

井田　久雄
（教員）

今回、中国の先生方と共に過ごす機会を得た。中国で言う〝重点校〟（いわゆるエリート校）の先生方ということだったが、実に友好心あふれる、温かな人たちだった。

ただ彼らは、討論する時はもちろん、バレーボールをする時も歌っている時も、常に真剣そのものだった。彼らの生き方であるとか、教育に対する姿勢を垣間見たような気がした。

話してみて、お互い相手の国の教育について、意外と知らない、ということも分かった。

教育に限らず、もっと私たちはさまざまな国について知る機会を作らねばならない、そう感じた。

合宿セミナーは3日間だったが、これで終わりにせず、いつの日か、ほかの日本人青年とともに中国に行って、彼らと再会しよう、と本気に考え始めている。

国際標準

平野　宏司
（教員）

〝暖簾に腕押し〟

12月4～6日に行われた中国高等学校教員グループとの合宿セミナーで、ある日本側参加者は、中国側との討論をこう表現した。彼によると、日本の教育関係者30人が、不登校や学級崩壊などを熱心に説明したが、中国側には問題の核心を全く理解してもらえなかった、という。

「不登校児なんて腕を引っ張って学校へ連れてこいよ、って中国の先生は言うんだけどさ」と彼は苦笑する。

しかし、日本側が中国側に対し、適切な言葉（あるいは図表等）で説明したかというと、疑問が残る。また中国側には合宿セミナー前に、日本や世界の教育問題および社会的背景の予備知識を得るチャンスが十分にあったのだろうか。国際会議に自国独自の発言方法や固定観念は無用である。

国際標準が重要視される今、世界の人々と広く付き合うならば、その前提として個々の社会の文明・文化と国際会議での方法論とを同時に理解することが強く求められる時代になった、と改めて感じている。

すぐに仲良くなれたのは…

風野　アヤ
（教員）

たった2泊3日なのに、私たちはあっという間に仲良くなった合宿セミナーだった。

中国とは隣国だが、歴史、生活、文化等、実は知らないままのことが多いように思う。そんな中、どんな雰囲気の合宿セミナーになるのか不安があった。しかし、お互いが教員という同じ職業であることが、その不安を解消した。

中国教員の笑顔、芸達者で、積極的に話しかけるなど、なんと魅力的なことか。彼らの姿は自信と意欲に満ちあふれ、日本側もそれに負けまいとする相

乗効果で、交流プログラムは活気に満ちた展開となった。

短時間で、最後は涙の別れができるほどに仲良くなったのは、中国教員の団結力と楽しむ心、そしてもっと仲良くなりたいと思う向上心に支えられていたのだ、感じた。日本教員も魅力的に頑張っていかなくてはならないと思っている。

4. ホストファミリーの思い出

心に花が咲いた！

池原　澄江
（沖縄県）

20世紀最大の贈り物がわが家に届いた。それはシャオホイさんと過ごした2泊3日のホームステイである。新聞等で、〝国際交流〟〝国際社会〟とよく耳にするが、自分とは無縁だと思っていた。

恩納村の友人知人の歓迎の中、シャオホイさんとは、筆談とジェスチュアですぐに打ち解け、なごやかな雰囲気になった。シャオホイさんの穏やかな性格と笑顔が、私たち沖縄人の気質と似通っていたせいかもしれない。

緑豊かな恩納岳、琉球石灰岩の万座毛を一緒に歩いた。別れの日は、寂しくて涙が止まらなかった。

出会いの素晴らしさに感動し、新風を吹き込まれた私だが、同じ地球で生活している友にまた会いたい。

沖縄県青少年育成県民会議、関係者の皆様、心に素晴らしい花をありがとうございました。

再会を約束して

古志谷　恭子
（鳥取県）

中国で音楽の先生をしている閻さんは、とても明るくチャーミングな女性だった。

私たち家族が楽しみにしていたことの一つは、彼女と一緒に賑やかな音楽会を開こう、ということだった。〝日中ミニコンサート〟と称した音楽会を、ピアノを囲んで行った。

彼女は「北国の春」と、中国の有名な曲であるという「梁祝」を弾いてくれた。長女もフルートを彼女の曲に合わせて奏でた。音楽に国境はないというが、本当に閻さんのひたむきな姿には感動し、中国の力強い勢いが肌で感じられた。

私たちは筆談等で、流行や恋愛のことを話し合った。彼女はとことん付き合ってくれた。観光やショッピングもしたし、写真もたくさん撮った。

別れはつらくて、彼女は大粒の涙を流し、次女は自分のマフラーをはずし、そっと彼女にかけてあげていた。

私たちの手元には、彼女が再会を強く望んだ、日本語で書かれた感謝の手紙が残っている。

閻さん、ありがとう。再会を約束して。

お隣の国から

佐々木　裕美子
（宮城県）

再来！　再見！

お互いに抱き合いながら、涙まじりの別れ。

わが家に2泊3日のホームステイをした、中国からのお客様、王さんは、積極的に家族に溶け込み、中国の文化も紹介してくれた。

露天風呂で星空を見上げながら、お互いの言葉を教え、笑い合うことができたことは、私たちの宝物となった。家で休ませなければ、と思いながらも、案内したいところがたくさんあり、慌ただしい3日間となった。

また、ホームパーティーを催したところ、仙台に

住んでいる中国青年が50人も集まり、夜遅くまで話が弾んだ。ほとんどが筆談だが、これほど心が通じ合えるものかと、感動した。

中国の娘、王さん、楽しい思い出をありがとう。謝謝。

実績資料

1．実績一覧

(1)「新日中青年の友情計画」実績一覧

●平成7年度（98名）

分野名	人数	実施協力団体	実施都道府県	地方実施協力団体
青年指導者	25	日本青年団協議会	岡山	(財)岡山県青年館
勤労青年	25	(社)日本経済青年協議会	三重	三重県連合青年団
公務員	23	(社)国際交流サービス協会	長崎	(財)長崎県国際交流協会
教員	25	(社)日本ユネスコ協会連盟	福島	福島ユネスコ協会

●平成8年度（100名）

分野名	人数	実施協力団体	実施都道府県	地方実施協力団体
青年指導者	25	(財)日本ユースホステル協会	宮城	宮城県ユースホステル協会
経済青年	25	(社)日本経済青年協議会	長崎	長崎県世界青年友の会
公務員	25	(財)ユースワーカー能力開発協会	福井	武生市国際交流協会
教員	25	(財)日本国際協力センター	兵庫	(財)兵庫県青少年本部

●平成9年度（100名）

分野名	人数	実施協力団体	実施都道府県	地方実施協力団体
青年指導者	25	(財)日本ユースホステル協会	宮城	宮城県ユースホステル協会
経済	25	(社)日本経済青年協議会	徳島	徳島県日中青年交流協会
公務員	25	(財)ユースワーカー能力開発協会	岩手	(財)岩手県国際交流協会
教員	25	(社)国際交流サービス協会	栃木	(財)栃木県青年会館

●平成10年度（100名）

分野名	人数	実施協力団体	実施都道府県	地方実施協力団体
青年指導者	25	(社)青少年育成国民会議	沖縄	(社)沖縄県青少年育成県民会議
経済青年	25	(財)ユースワーカー能力開発協会	石川	小松市国際交流協会
公務員	25	(財)世界青少年交流協会	徳島	徳島県日中青年交流協会
教員	25	(社)国際交流サービス協会	富山	(財)とやま国際センター

●平成11年度（100名）

分野名	人数	実施協力団体	実施都道府県	地方実施協力団体
青年指導者	25	(社)青少年育成国民会議	大阪	(財)大阪府青少年活動財団
経済青年	25	(財)ユースワーカー能力開発協会	富山	(財)とやま国際センター
公務員	25	(財)日本ユースホステル協会	三重	(財)三重県国際交流財団
教員	25	(財)日本友愛青年協会	徳島	徳島県青年海外派遣の会

＊共通・評価プログラムについては、日本国際協力センターが全グループに対して実施した。

(2)「新中国実務者招へい計画」実績一覧

●平成７年度（99名）

分野名	人数	実施協力団体	実施都道府県	地方実施協力団体
産業基盤整備	25	(財)日本ユースホステル協会	鳥取	とっとり青友会
経済開発	24	(社)勤労厚生協会	愛媛	(財)愛媛県国際交流協会
地域振興	25	(財)世界青少年交流協会	香川	香川県海外派遣友の会
人材育成	25	(社)青少年育成国民会議	沖縄	(社)沖縄県青少年育成県民会議

●平成８年度（100名）

分野名	人数	実施協力団体	実施都道府県	地方実施協力団体
産業基盤整備	25	(財)世界青少年交流協会	山口	世界青年徳山友の会
経済開発	25	(社)勤労厚生協会	栃木	栃木県外国青年招へい事業実行委員会
地域振興	25	(財)日本国際協力センター	鳥取	とっとり青友会
人材育成	25	(社)青年海外協力協会	沖縄	(社)沖縄県青少年育成県民会議

●平成９年度（100名）

分野名	人数	実施協力団体	実施都道府県	地方実施協力団体
産業基盤整備	25	(財)世界青少年交流協会	兵庫	(財)兵庫県青少年本部
経済開発	25	(社)勤労厚生協会	鳥取	とっとり青友会
地域振興	25	(社)青年海外協力協会	北海道	十勝インターナショナル協会
人材育成	25	(財)ユースワーカー能力開発協会	沖縄	(社)沖縄県青少年育成県民会議

●平成10年度（100名）

分野名	人数	実施協力団体	実施都道府県	地方実施協力団体
産業基盤整備	25	(財)日本国際協力センター	岡山	(財)岡山県国際交流協会
経済開発	25	(社)勤労厚生協会	三重	(財)三重県国際交流協会
地域振興	25	(財)世界青少年交流協会	長崎	長崎県世界青年友の会
人材育成	25	(財)ユースワーカー能力開発協会	北海道	十勝インターナショナル協会

●平成11年度（100名）

分野名	人数	実施協力団体	実施都道府県	地方実施協力団体
人材育成	25	(社)青少年育成国民会議	石川	(財)石川県ユースホステル協会
経済開発	25	(社)勤労厚生協会	大阪	(財)太平洋人材交流センター
地域振興	25	(財)ユースワーカー能力開発協会	徳島	徳島日中青年交流協会
産業基盤整備	25	(社)国際善隣協会	滋賀	滋賀県青年団体連合会

＊共通・評価プログラムについては、日本国際協力センターが全グループに対して実施した。

(3) 「中国初等中等青年教員招へい計画」実績一覧

●平成11年度（120名）

分野名	人数	実施協力団体	実施都道府県	地方実施協力団体
小学校教員1	24	(社)勤労厚生協会	鳥取	とっとり青友会
小学校教員2	24	(財)日本ユースホステル協会	宮城	宮城県ユースホステル協会
中学校教員	24	(社)青少年育成国民会議	沖縄	(社)沖縄県青少年育成県民会議
高等学校教員1	24	(社)青年海外協力協会	愛媛	愛媛県青年海外協力協会
高等学校教員2	24	(財)世界青少年交流協会	長崎	長崎県世界青年友の会

＊共通・評価プログラムについては、日本国際協力センターが全グループに対して実施した。

2．平成11年度青年招へい実績一覧

受入時期 陣・人数	国名	分野	人数	実施協力団体	実施県	地方実施協力団体
5月12日〜6月8日 1陣46人	タイ	教員	23	(社)国際交流サービス協会	山梨	(社)青少年育成山梨県民会議
	タイ	農業	23	日本青年団協議会	岡山	(財)岡山県青年館
5月12日〜6月8日 2陣75人	フィリピン	教員	23	(財)日本ユースホステル協会	群馬	(財)群馬県国際交流協会
	フィリピン	農業	23	(財)岩手県国際交流協会	岩手	(財)岩手県国際交流協会
	フィリピン	経済経営	29	(社)勤労厚生協会	栃木	(財)栃木青年会館
5月19日〜6月15日 3陣30人	パプア・ニューギニア	教員	20	(社)日本経済青年協議会	石川	小松市国際交流協会
	パプア・ニューギニア	公務員	10	(社)青年海外協力協会	奈良	(社)まちづくり国際交流センター
5月19日〜6月15日 4陣100人	中国	青年指導者	25	(社)青少年育成国民会議	大阪	(財)大阪府青少年活動財団
	中国	経済青年	25	(財)ユースワーカー能力開発協会	富山	(財)とやま国際センター
	中国	公務員	25	(財)日本ユースホステル協会	三重	(財)三重県国際交流財団
	中国	教員	25	(財)日本友愛青年協会	徳島	徳島県青年海外派遣の会
5月26日〜6月22日 5陣92人	マレイシア	教員	25	(社)国際交流サービス協会	福井	(財)福井県国際交流協会
	マレイシア	農業	21	(財)世界青少年交流協会	秋田	(財)秋田県国際交流協会
	インドネシア	教員	23	(社)勤労厚生協会	山形	山形県青年海外協力協会
	インドネシア	農業	23	(社)青年海外協力協会	福岡	(社)青年海外協力協会九州支部
6月23日〜7月20日 6陣40人	フィリピン	行政	20	(財)世界青少年交流協会	茨城	茨城県外国青年招へい事業実行委員会
	フィリピン	地域振興	20	(社)日本経済青年協議会	北海道	千歳国際交流協会
6月30日〜7月27日 7陣97人	ASEAN混成	教育	24	(社)日本国際生活体験協会	埼玉	上尾市国際交流協会
	ASEAN混成	経済	25	(社)青少年育成国民会議	福岡	(社)九州・山口経済連合会
	ASEAN混成	保健衛生	24	(財)国際看護交流協会	愛知	(財)国際看護交流協会
	ASEAN混成	社会福祉	24	(財)札幌国際プラザ	北海道	(財)札幌国際プラザ
7月7日〜8月3日 8陣100人	韓国	青年指導者・公務員	25	(社)青少年育成国民会議	香川	(財)香川県国際交流協会
	韓国	勤労青年(事務系)	25	(社)勤労厚生協会	大分	大分県海外協会
	韓国	教員(高等学校)	25	(財)日本ユースホステル協会	新潟	(財)新潟県国際交流協会
	韓国	学生(人文・社会系)	25	(財)世界青少年交流協会	北海道	(社)滝川国際交流協会
7月14日〜8月10日 9陣49人	ヴィエトナム	経済	24	(財)日本国際協力センター	愛媛	(財)愛媛県国際交流協会
	ヴィエトナム	農業	25	(社)青年海外協力協会	和歌山	(社)和歌山県青少年育成協会
7月14日〜8月10日 10陣92人	ASEAN混成	科学技術	24	(財)豊川市国際交流協会	愛知	(財)豊川市国際交流協会
	ASEAN混成	環境保全	21	(社)日本経済青年協議会	北海道	釧路市海外青年招へい事業実行委員会
	ASEAN混成	公共・公益事業	24	(社)国際交流サービス協会	岐阜	岐阜県世界青年友の会
	ラオス	地域開発	20	(財)高知県国際交流協会	高知	(財)高知県国際交流協会
8月18日〜9月14日 11陣40人	バングラデシュ	保健医療	20	(財)国際看護交流協会	島根	島根県国際交流青友会
	パキスタン	公務員(開発部門)	20	(社)青年海外協力協会	香川	香川県海外派遣友の会
9月23日〜10月20日 12陣29人	スリ・ランカ	教育(小中高教員)	10	(財)愛知県国際交流協会	愛知	(財)愛知県交際交流協会
	ブータン/モルディヴ	教育(小中高教員)	10	(財)日本国際協力センター	佐賀	佐賀ユネスコ協会
	ネパール	教育(学校経営)	9	(社)駒ヶ根青年会議所	長野	(社)駒ヶ根青年会議所
10月13日〜11月9日 13陣100人	中国	人材育成	25	(社)青少年育成国民会議	石川	(財)石川県ユースホステル協会
	中国	経済開発	25	(社)勤労厚生協会	大阪	(財)太平洋人材交流センター
	中国	地域振興	25	(財)ユースワーカー能力開発協会	徳島	徳島県日中青年交流協会
	中国	産業基盤整備	25	(社)国際善隣協会	滋賀	滋賀県青年団体連合会

受入時期 陣・人数	国名	分野	人数	実施協力団体	実施県	地方実施協力団体
11月3日 〜 11月30日 14陣50人	カンボディア	経済	30	㈶日本ユースホステル協会	北海道	とまこまい国際交流センター
	サウディ・アラビア	教育(小中高教員)	20	㈳青年海外協力協会	岡山	岡山青年国際交流会
11月10日 〜 12月7日 15陣75人	アフリカ(仏語圏)	女性教員	24	㈶世界青少年交流協会	青森	青森県青年海外協力協会
	アフリカ(仏語圏)	理数科教員	25	㈶大阪府国際交流財団	大阪	㈶大阪府国際交流財団
	アフリカ(仏語圏)	保健衛生	26	㈶日本国際協力センター	岡山	津山と世界を結ぶ会
11月17日 〜 12月14日 16陣50人	インド	教育(理数科教員)	30	㈶世界青少年交流協会	北海道	十勝インターナショナル協会
	ミャンマー	教育	20	㈳日本ユネスコ協会連盟	神奈川	鎌倉ユネスコ協会
11月24日 〜 12月21日 17陣56人	太平洋混成	公務員	22	㈳日本経済青年協議会	山口	㈶山口県国際交流協会
	太平洋混成	教員	22	㈳日本国際生活体験協会	山口	世界青年徳山友の会
	フィジー	公務員	12	㈶日本国際協力センター	兵庫	㈶神戸国際協力センター
11月24日 〜 12月21日 18陣 120人	中国	小学校教員1	24	㈳勤労厚生協会	鳥取	とっとり青友会
	中国	小学校教員2	24	㈶日本ユースホステル協会	宮城	宮城県ユースホステル協会
	中国	中学校教員	24	㈳青少年育成国民会議	沖縄	㈳沖縄県青少年育成県民会議
	中国	高校教員1	24	㈳青年海外協力協会	愛媛	愛媛県青年海外協力協会
	中国	高校教員2	24	㈶世界青少年交流協会	長崎	長崎県世界青年友の会
1月12日 〜 2月8日 19陣69人	タイ	経済経営	23	㈳勤労厚生協会	愛知	ジャパンヤングサークル東海支部
	タイ	行政	23	㈳国際交流サービス協会	鹿児島	㈶鹿児島県国際交流協会
	タイ	地域振興	23	㈶世界青少年交流協会	兵庫	㈶兵庫県青少年本部
1月12日 〜 2月8日 20陣51人	ヴィエトナム	教育	26	㈶ユースワーカー能力開発協会	宮崎	ユースワーカー能力開発協会宮崎県支部
	ヴィエトナム	公務員	25	㈶日本国際協力センター	千葉	㈶千葉県国際交流協会
1月19日 〜 2月15日 21陣35人	中央アジア混成	経済	25	㈶日本ユースホステル協会	北海道	北海道YMCA
	モンゴル	地方行政官	10	㈶世界青少年交流協会	福島	にほんまつ地域市民の会
1月19日 〜 2月15日 22陣54人	中南米混成	社会福祉	28	㈳青年海外協力協会	熊本	熊本県青年海外協力協会
	中南米混成	教員	26	㈳日本国際生活体験協会	沖縄	㈶沖縄県国際交流財団
1月26日 〜 2月22日 23陣68人	インドネシア	経済経営	23	㈳日本経済青年協議会	静岡	沼津国際交流協会
	インドネシア	行政	23	㈳青少年育成国民会議	福島	福島県青年海外派遣友の会
	インドネシア	地域振興	22	㈳勤労厚生協会	福岡	福岡県海外青年招へい事業実行委員会
2月2日 〜 2月29日 24陣69人	アフリカ(英語圏)	女性教員	24	㈶ユースワーカー能力開発協会	京都	㈳青年海外協力協会近畿支部
	アフリカ(英語圏)	理数科教員	23	㈳青年海外協力協会	北海道	青年海外協力隊北海道OB会
	アフリカ(英語圏)	保健衛生	22	㈳青少年育成国民会議	静岡	㈶静岡県国際交流協会
2月9日 〜 3月7日 25陣68人	マレイシア	経済経営	21	㈳国際交流サービス協会	広島	しょうばら国際交流協会
	マレイシア	行政	25	㈶日本ユースホステル協会	広島	㈶広島青少年文化センター
	マレイシア	地域振興	22	㈶世界青少年交流協会	富山	富山県世界青年友の会
合計	73グループ 107カ国・地域 1,655人	カンボディア(30)　インドネシア(149)　ラオス(34)　マレイシア(149)　ミャンマー(20) フィリピン(150)　タイ(150)　ヴィエトナム(115)　太平洋14カ国・地域(86) 中国(320)　韓国(100)　南西アジア7カ国(99)　モンゴル(10) アフリカ49カ国(144)　中南米20カ国(54)　サウディ・アラビア(20) 中央アジア5カ国(25)				

青年邀请计划

前　　言

“青年邀请计划”是国际协力事业团（JICA）对发展中国家所开展的技术合作的内容之一。邀请将来成为建设国家栋梁之材的青年来我国，并根据各专业进行为期一个月的访问活动。其目的在于了解各领域的实际情况，同时通过与民宿家庭等广泛交流加深相互理解，培育信赖关系与友谊。

被邀请的国家也从当初的东盟六国扩大到现在的一百二十个国家以上，自一九八四年本计划开始以来，十六年中应邀访问日本的青年达到一万九千八百四十九名。这与各方面有关人士的大力协助和热情支持是分不开的。在此，我谨向各位表示由衷的谢意。

本报告以访日青年、参加合宿研讨会的日本青年以及全国各地民宿接待家庭的各位的感想为主，综合记录了访日青年的活动内容。如本报告能为本事业的进一步发展起到借鉴作用，并为各位留下一个美好回忆，我将感到不胜荣幸。本报告将寄给本年度所有应邀来访的青年和各国的有关人士留念。

最后，我再次向寄来热情洋溢的感想和宝贵意见的各位及有关方面人士表示深深的谢意，为使“青年邀请计划”的交流内容更富有意义，今后还望各位给予大力支持与合作。

国际协力事业团
国 内 事 业 部
部长　今津　武
二〇〇〇年三月

目　　录

前　言

一．新中日青年友谊计划

一、新中日青年友谊计划

1-1　概要 ………… 61

1-2　计划实施情况 ………… 62

二、应邀青年的感想 ………… 65

三、参加合宿研讨会的日本青年的感想 ………… 67

四、民宿主人的感想 ………… 69

二、新中国基层工作人员邀请计划

一、新中国基层工作人员邀请计划

1-1　概要 ………… 73

1-2　计划实施情况 ………… 74

二、应邀青年的感想 ………… 77

三、参加合宿研讨会的日本青年的感想 ………… 79

四、民宿主人的感想 ………… 81

三．中国初等中等青年教员邀请计划

一、中国初等中等青年教员邀请计划

1-1　概要 ………… 85

1-2　计划实施情况 ………… 86

二、应邀青年的感想 ………… 89

三、参加合宿研讨会的日本青年的感想 ………… 91

四、民宿主人的感想 ………… 93

实施情况等资料

1. 迄今为止实施的青年邀请计划一览表

(1) 新中日青年友谊计划 ………… 97

(2) 新中国基层工作人员邀请计划 ………… 98

(3) 中国初等中等青年教员邀请计划 ………… 99

2. 1999年度青年邀请计划实施情况一览表 ………… 100

一．新中日青年友谊计划

一、新中日青年友谊计划

1-1 概　要

(1) 目　的

“新中日青年友谊计划”的目的是，为了面向21世纪，中日两国分享更好的未来、和平和繁荣、通过日本与中国青年的交流，增进相互之间的理解和信赖。

(2) 实施方法

A　邀请人数

1999年度一次邀请100名青年

B　邀请对象

在以下各领域里从事领导工作的20～35岁的青年

(i)　青年工作者　25名

青少年活动有关工作人员、大学职员、公务员、翻译

(ii)　经济青年　25名

企业等干部・职工、公务员、团体职员、新闻工作者、经济学者

(iii)　公务员　25名

除了其它三个分团领域以外的一般公务员、团体职员

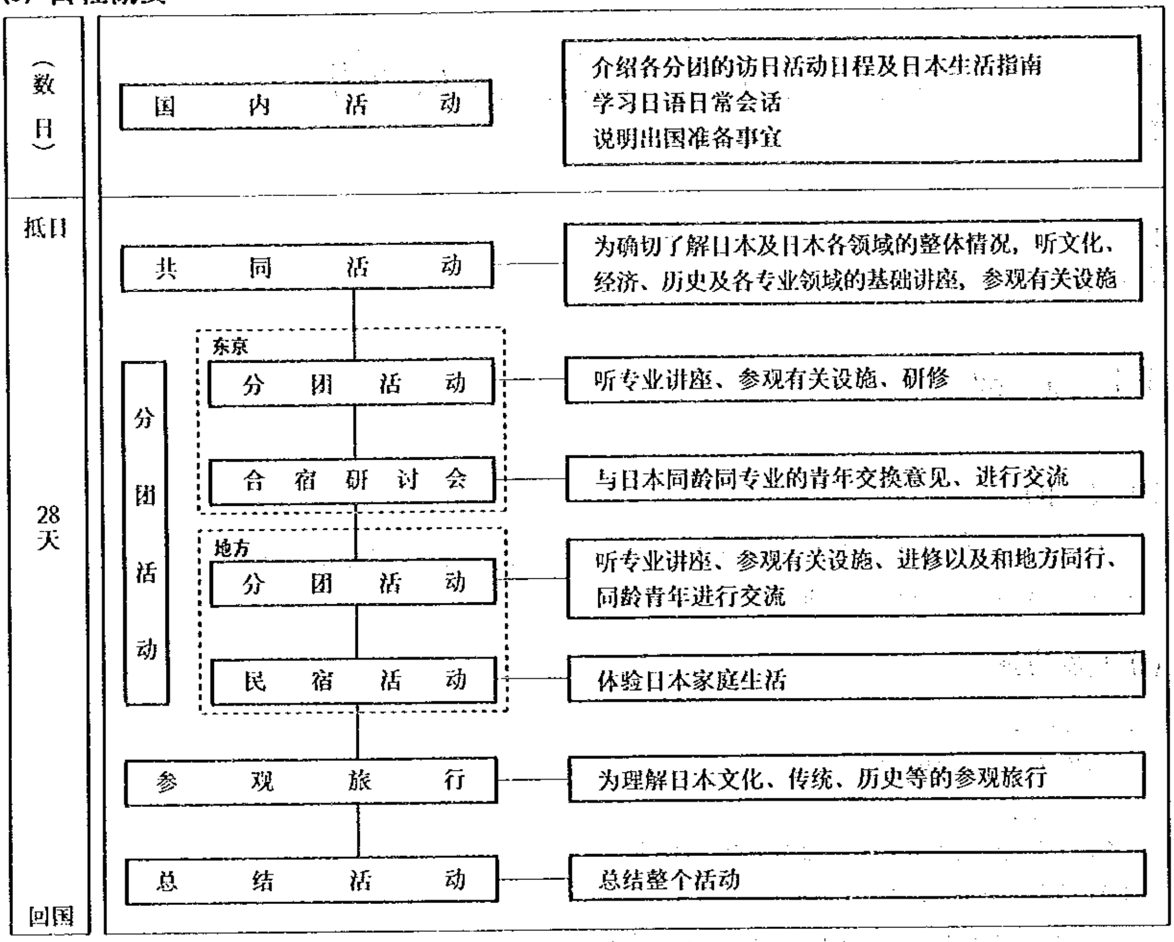
(iv)　教员　25名

教育机关的教员、教育有关的公务员

C　邀请日期

5月19日～6月15日　28天

(3) 日程概要

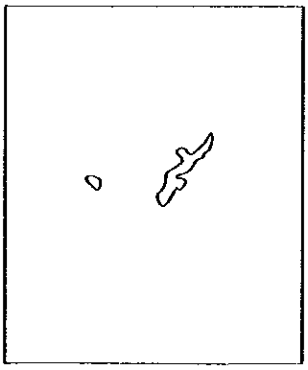


1-2 计划实施情况

分　团	人数	实施协助团体	实施都道府县	地方协助团体
青年工作者	25	(社)青少年育成国民会议	大　阪	(财)大阪府青少年活动财团
经济	25	(财)青年工作者能力开发协会	富　山	(财)富山国际中心
公务员	25	(财)日本青年旅舍协会	三　重	(财)三重县国际交流财团
教员	25	(财)日本友爱青年协会	德　岛	德岛县青年海外派遣之会

*日本国际协力中心为所有分团安排实施了共同活动和总结活动.

地方分团活动实施都道府县地图



二、应邀青年的感想

满载访日成果 为中日友好与中国的发展而努力

刘为民

（青年工作者分团）

近一个月的访日，加深了我们对日本的政治、经济、文化、教育，特别是对日本青少年的现状以及对青少年工作的认识。日本经济高度发达、人民勤劳善良，社会财富已经有了相当程度的积累，各项建设完善，生态环境保护得良好……，这一切，都为今后日本的进一步发展奠定了雄厚的基础。

中日两国一衣带水，同为亚太地区的重要国家，有责任和义务为亚太地区乃至世界的和平与发展做出贡献。我们愿以此次访日为契机，与日本青年一道，为建立面向二十一世纪的健康、稳定的中日关系做出积极的努力。我们还要把日本成功的经验带回中国去，为促进中国各方面的发展尽自己的全力。

走近富山

郭晓霭

（经济分团）

在日本逗留期间，最令人难忘的是富山之行。

走近富山，首先映入眼帘的是连绵数十里的立山，其山峰的积雪在阳光的照射下，显得异常耀眼俊秀；翠绿的草木使富山格外的宁静和安祥；庭前屋后盛开着杜鹃花，她们把富山装点得妩媚而富有生气；城中缓缓地流淌着神通川；河里的鱼儿尽情戏水畅游；河边、街边的风格迥异的雕塑讲诉着一个个动人的故事。

走近富山，我们感受到了富山人民对创造美好家园的渴望和追求，每个人都在奋斗和努力，而乐此不疲。他们对社会、对人类强烈的责任感和使命感，震撼和影响着我们中国青年。

走近富山，我们与富山人民结下了不解之缘。无论是参观企业，还是民宿活动，所到之处，都被富山人民的热情和善良所感染。短短几天，通过心灵的交流和沟通，使更多的日本人了解了中国；另一方面，使我们深深地感受到了富山人尤其是年轻人对中日友好事业的关爱和支持，以及对世界和平的渴望。让我们发自内心地祝愿：中日友好——世世代代。

以日本的经验与教训为参考

欧顺清

（公务员分团）

一个月的考察访问，给我们留下了深刻的印象。

通过专题讲座，对日本的公务员管理制度有了深入的了解，为严格公务员队伍的管理，实行了政务公开、定期轮岗、舆论监督以及严厉的处罚措施。特别是为适应日本经济社会发展的需要，不断调整政府职能和机构，保持精干高效的公务员队伍，以推动经济高速发展的经验值得重视。

为期三天的合宿研讨会，使我们对日本青年的理想和人生态度有了深刻的了解，加深了两国青年的友谊，找到了共同点。致力于社会经济发展，提高人民生活水平是当代两国青年应尽的职责。

参加三重县的民宿活动，使我们了解了日本普通家庭的情况，对家庭结构、社会分工、家庭生活水平、普通百姓的生活态度有了一些认识，也深刻地感受到了日本人民对我们的友好感情。

在最后的观光考察活动中，日本的历史、文化风情、

城市建设、社会文明程度、环境保护现状等等给我们留下了深刻的感性知识。

访日考察，时间虽短，但给我们留下了深刻的印象，日本在经济发展、行政管理、城市建设与环境保护中的经验和教训对我们将是有益的启示。

大桥·涡潮·鸣门

文洁民
（教育分团）

雄伟的鸣门大桥横跨两岸，它之所以能够抗击风浪，抵御地震，那是因为它坚实的桥墩深深地扎根在岩石之中。我深深地感到，在中日两国青年之间也架有一座友谊的大桥，它所以能够经受考验，那是因为它已经牢固地扎根在我们心里。大桥下是浩淼的海洋，海涡阵阵，涡潮翻腾，我的心潮犹如那海涡，一浪更比一浪高。

在德岛，两国青年沉浸在欢乐的海洋里，那涡潮分明是我们感情的旋涡！

“鸣门”二字在中文里分别是“鸣响”和“门扉”的意思，语言不通心相通，一个声音在两国青年的心扉中共鸣：让我们共同叩响二十一世纪的大门吧！

三、参加合宿研讨会的日本青年的感想

留在心中的交流

增田胜
（学生）

参加了与中国青年工作者分团的合宿研讨会，和很多中国青年进行了交流，同时也了解到许多日本青年的想法，在各种意义上讲，我都学到了很多东西。

这次，我是从“在日本的中国人”这一自己特有的观点，对“中国（日本）青年所思考的日本（中国）”产生了兴趣而参加合宿研讨会的。

合宿研讨会中，中日青年不仅谈了各自的印象，而且就自己所关心的问题也进行了充分的讨论。尤其是在“科索沃问题”、“新防卫指针法案”、“日、美、中关系问题”以及“中国的环境问题”等问题上，两国青年之间的讨论十分热烈，一直持续到深夜。尽管对有些问题未能得出结论，但对两国青年来说，都是一次留在心中的交流。

我认为中日友好关系在国际关系中至关重要。类似这样的青年交流一定会对加深中日两国的相互理解起到重要作用。

小组讨论的一幕

藤井秀树
（公务员）

当听到乌兰翻译翻到“调动工作在中国并不新鲜”这句话时，我们都发出了惊讶的声音。这件事发生在小组讨论会上，接着，“有没有退休金？”“养老金呢？”等的一连串的提问接踵而至。

中方参加人员大多都是领导干部。年轻有为、才貌双全的副经理小张回答我们说：“在中国，有调动工作经验的人会得到正当的评价的，我们都调动过好多次工作。”

我们感到，他们的行动能力，正是来自于要在一个月的日程中学习和吸收很多东西的这种进取精神。讨论结束后，我们心目中的中国人变得越来越可信有前途了。

社会中的教育

福永佳史
（学生）

经人偶然介绍，我参加了与中国教员团的合宿研讨会。研讨会围绕着有关教育的主题进行了三天的讨论。我所关心的是其中有关社会教育和道德教育方面的内容，而中国教师则对学校、社会、家庭三者在教育上的分工最为关注。他们似乎试图从中找出日本成功发展的理由，我觉得这正是我们日本人所忽视的一个视点。“终身教育”似流行语一般在日本被频繁使用，而在我们日本是不是将教育完全视为教育委员会以及行政的职责了呢？教育不是只在学校和业余学校能够完成的。作为一个家庭成员和社会成

员我们能做些什么？应该做些什么？上述三者分别有哪些长处与短处？我们年轻一代应该上升到更高的水准来认识这些问题。

中国的教师们同我一样，对学校的德育教育也非常感兴趣。在为“小皇帝现象”而感到头痛的中国，德育教育也是个大问题。而在日本同样存在着“失去自控的学生”、“学校教学秩序混乱”等道德问题。无论是“学校教育不力”，还是“家教不严”，归根到底，这是一个所有人都必须积极参与的问题。我们日本人是不是也有中国教师所有的这种意识呢？

平日我在一个叫“爱赛库”的学生团体中有机会与中国学生接触，而这次能与已参加工作的人，同时又是与学生距离很近的人在一起，从不同的角度进行学习，是十分有意义的。我虽然不是从事教育专业的，但从一个正在接受高等教育的学生角度，我想我多少满足了一些他们那无穷无尽的好奇心和求知欲。如果平日再多学一点东西，相信这次的经历定会更加精彩，这是我唯一的一个小小的遗憾。

四. 民宿主人的感想

渴望更多地了解中国

森胁裕美子
（大阪府）

"时间过得真快"

时间真是转瞬即逝。有时笔谈也谈不通，只好借助字典交谈，相对要说的很多的话，两晚三天的时间未免太短了。

起初，我们十分紧张，不知道该说什么、怎么说才好。然而小王却以她那和蔼细腻的感情使我们得到放松。我们不会忘记她无论在吃什么时都用日语连声说："好吃"。

我是第一次听说岚山有个周恩来的纪念碑。我通过石碑附近的留言得知很多中国人都敬慕周恩来而前来瞻仰，深深体会到周恩来在中国人的心目中是享有何等的威望。

我想我一定要学会小王教给我的水饺的做法．小王，下次你一定和你家里人一起到我家来吃饺子。

我从钟凡身上学到的

觉王真纪
（富山县）

我多了一个充满活力的姐姐。她的名字叫樱。她希望我们给她取一个日本名字，我们全家商量了以后选了这个名字。

她开朗大胆，充满了积极的挑战精神．她那对任何事都竭尽全力去实践的姿态与我形成了鲜明的对比。与她相识以后，我的想法改变了，成事在人，凡事不必计较结果而只要努力。

在我谈及未来的理想吐露出怯弱之情时。她鼓励我说："你还年轻，一切还刚刚开始呢。给周围的压力压跨了可不行！只要努力，你的理想肯定能实现的！"我的心里又对未来充满了憧憬。

此次接待民宿客人，使我学到了很多东西，内心充满了感激之情。

接待中国公务员访日青年代表团

中岛吉雄
（三重县）

这次中国公务员青年代表团一行前来三重县访问，我家也参加了短短的两晚三天的接待民宿青年的活动，经历了一次宝贵的体验。

欢迎会上，彼此陌生，语言不通，气氛稍显紧张，这也在情理之中。但民宿活动即将结束时的欢送会上，却自始至终都洋溢着亲密友好的气氛，会场上谈笑风声，热烈非凡，最后以日本歌曲大合唱和那一双双紧握的双手而告结束，欢送会获得了圆满成功。

来我家的小王是一位开朗豁达的青年。虽然逗留时间非常短暂，但我们双方心心相印，各自都留下了难以忘怀的记忆。

通过这次体验，我所想到的，以及平日我所感觉到的是："友好交流要始于对话"。特别是日本与中国一衣带水，历史上的交流自不待言，将来也应该是最亲密的国家。我认为，应该有更多的日本人学中文，有更多的中国人学日文。

衷心希望这样的民宿活动今后将会更加充实。

二．新中国基层工作人员邀请计划

一、新中国基层工作人员邀请计划

1-1 概 要

(1) 目 的

"新中国基层工作人员邀请计划"的目的是，通过中日两国基层工作人员的交流，支援中国现代化建设，同时为了面向21世纪确立更加美好的中日合作关系，增进相互之间的理解和信赖。

(2) 实施方法

A 邀请人数

1999年度一次邀请100名青年

B 邀请对象

在以下各领域里从事领导工作的20～35岁的青年

(i) 人材培养 25名

公务员、教员、团体职员、新闻工作者等

(ii) 经济开发 25名

与经济相关的公务员、企业工作人员等

(ii) 地区振兴 25名

省・自治区政府的地区开发方面的有关人员、团体职员等

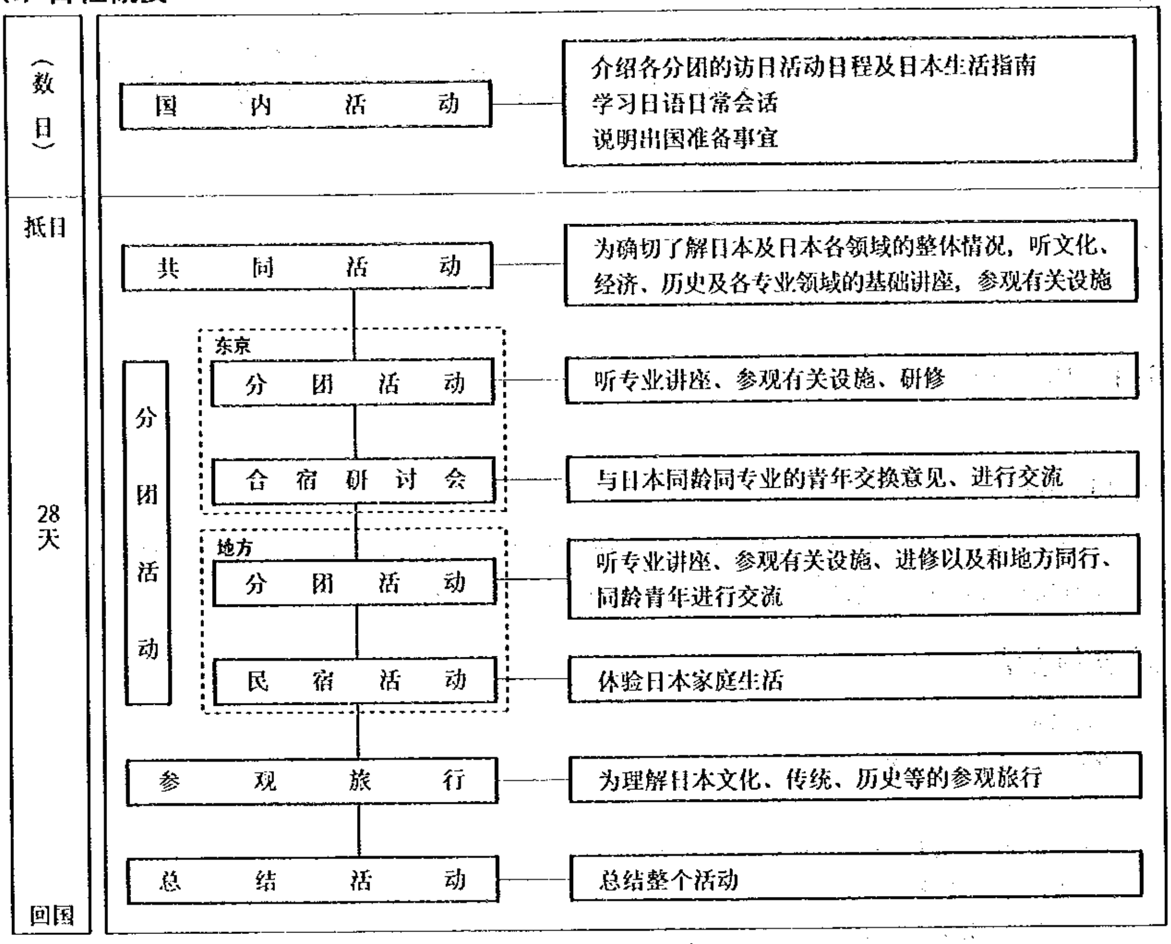
(iv) 产业基础设施建设 25名

国家计划、建设、贸易・财政方面的有关公务员等

C 邀请日期

10月13日～11月9日 28天

(3) 日程概要

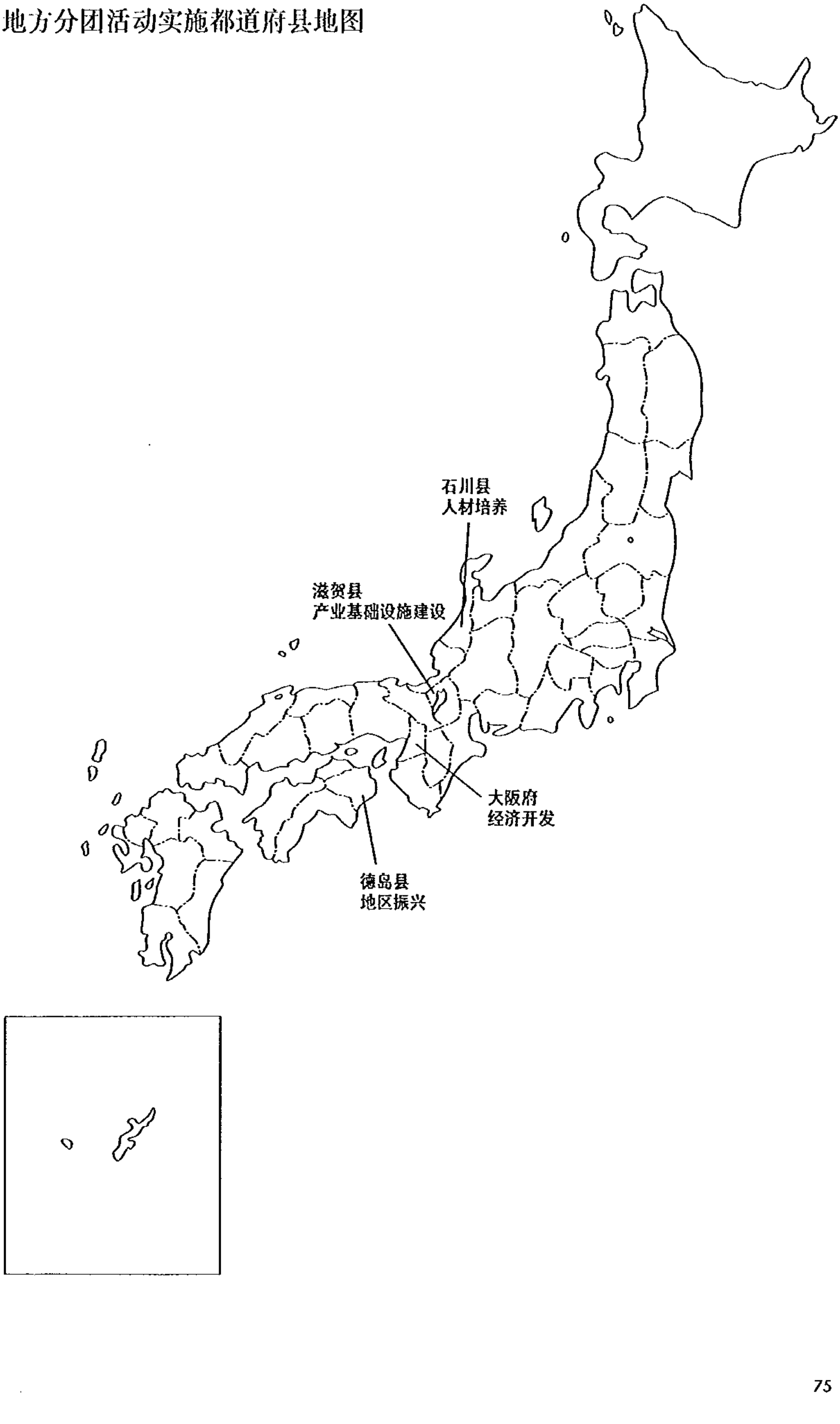


1-2 计划实施情况

分团	人数	实施协助团体	实施都道府县	地方协助团体
人材培养	25	(社)青少年育成国民会议	石川	(财)石川县青年旅舍协会
经济开发	25	(社)勤劳厚生协会	大阪	(财)太平洋人材交流中心
地区振兴	25	(财)青年工作者能力开发协会	德岛	德岛日中青年交流协会
产业基础设施建设	25	(社)国际善邻协会	滋贺	滋贺县青年团体联合会

*日本国际协力中心为所有分团安排实施了共同活动和总结活动.

地方分团活动实施都道府县地图



二、应邀青年的感想

访日随感

郭　庆
（人材培养分团）

匆匆间，短短二十八天的访日研修业已结束。在此期间，既为日本先进发达的交通、通讯和文化教育设施所震惊，也为日本人民真诚、友善的态度和敬业、自律的精神所感染。在这里，对人的价值的理解和重视形成了全社会系统化的教育机制和较高的国民素质；由“会社主义”而形成的社会认同和勤奋、团结的国民意识都给我留下了深刻的印象。无论是紧张有序的研修活动，还是丰富多彩的参观交流，尤其是两天的民宿生活，更是洋溢着融融友情。亲身的感受和体验使短暂的的二十八天成为记忆中的一段难以忘怀且殊感欣慰的美好回忆。

衷心祝愿两国人民能继续和睦相处，不断加深了解，增进友谊，继往开来，共同迈向二十一世纪。

真正意义的交流

左　锋
（经济开发分团）

国际交流的形式有多种多样。JICA组织的青年研修活动，为我提供了直接了解日本的机会。通过与日本各界人士的接触，参观工厂企业、政府机构和名胜古迹，特别是与日本人同吃同住，坦诚地就各种问题交换意见，使我对日本的政治、经济、社会、文化有了真切、深入的了解。我认为，这才是真正意义上的国际交流。

个人之间的理解需要交流与沟通，民族之间、国家之间的理解更需要交流与沟通。中日是一衣带水的邻邦，两国政府和人民有着两千多年的交往历史，曾经谱写了一曲曲感人肺腑的友好乐章。但勿庸讳言，两国之间还存在着这样那样的误解和疑虑，增信释疑、共筑友好是两国政府和人民、尤其是青年一代义不容辞的责任。

虽然，相对于漫漫历史长河而言，一个月的时光只是稍纵即逝的瞬间，但它在我心中刻下的印记却是无法磨灭的。日本，我带着疑惑和好奇靠近你；东瀛，我满载着收获和友谊离开你。分别自是无奈和惆怅，但没有分别，又哪会有重逢的喜悦和美丽？！

访日心得

马立新
（地区振兴分团）

非常幸运地在最美好的季节里访问了日本，感触颇深，收获颇多。

首先是我们在进行地区开发项目研修时，对日本在区域规划和城市开发过程中，所充分体现的尊重居民意志、以居民为核心的开发规划原则深感兴趣，很值得正处于努力提高城市化水平的中国加以借鉴。其次，通过在日本农民家庭的民宿体验，对日本农村富裕的生活水平十分惊讶，日本政府在扶持农业和保护农民利益、缩小城乡差距上采取了许多有效的措施和办法。其他诸如日本人民的环境保护意识、集体观念以及敬业精神都给我留下了深刻的印象。

衷心祝愿中日两国友谊万年常青。

加强交流 增进友谊

王 恬
（产业基础设施建设分团）

应JICA的邀请，我有幸作为百人访日团产业基础设施建设分团的一名成员来到日本，在与日本人民进行交流的同时，学习日本产业管理方面的先进经验，考察日本先进的科学技术。我们用刚学到的日语同日本青年合宿，体验生活，并在日本人家庭生活。这些活动使我们加深了对日本以及对日本人的了解。日本人的热情、志愿者的奉献精神、日本家庭对我们无微不至的关怀令人感动，在某种程度上使我们转变了对日本人的看法。通过交流活动，加强了相互之间的了解，增进了两国人民的友谊。值得一提的是日方工作人员对工作热情主动，认真负责，真正体现了日本公务员的敬业精神，为我们做出了好的榜样。日本方便的交通、清洁优美的环境、完善的城市基础设施均给我们留下了深刻的印象，使我们看到了中日两国之间存在的差距。

三．参加合宿研讨会的日本青年的感想

迎接中国青年代表团

冈田道树
（团体职员）

"祝你生日快乐，老朋友！"

没想到，恰巧在合宿研讨会期间迎来了我的生日，我得到了很多"老朋友"的祝福，这一天成了我终生难忘的值得纪念的一天。

即使是日本人之间相互了解也需要一定的时间，而不同国籍、不同语言的人们到底能交流到什么程度呢？然而这种担心不过是杞人忧天。同食共寝，昼夜攀谈，到了第三天，我们就像十年之交的老朋友，以至到了狂欢大闹的地步。

所有参加成员都深切地感到：仅仅都是"青年"这一共同点就已经使我们结下超越国境的友谊成为可能。

诚挚地感谢为我们创造如此良好机会的工作人员。

参加合宿研讨会

石崎力
（公务员）

朋友们，你们好！

此次合宿研讨会给我留下了很多美好的回忆。

是以前读的鲁讯的作品，使我对开始中国产生了兴趣。以后碰到机会我就通过图书、电视或者电影来了解中国。当我正想设法能和中国人聊聊的时侯，这次合宿研讨会则成了我的牵线人。

通过参加合宿研讨会，我切身地感到，通过实际与中国人接触，使我对中国的兴趣越来越浓。我很恼自己不会讲中文，但在大家的帮助下，使我度过了一段愉快的时光。

我希望今后能与在合宿研讨会上认识的朋友继续交流下去。

寻找差异的困难与乐趣

山崎优理
（团体职员）

合宿第二天，有一个关于不同文化交流的讲座，其中教授谈到，"我们通常在交流之中总是试图去发现与我们相同的东西，但是为了正确理解对方，我们应该尽可能地去发现与自己不同的东西，哪怕是非常微不足到的。"

的确，当我在接触对方时，为和对方亲近，总是先从一些不即不离的话题入手，当发现同为女性的共同之处之时，我会禁不住格外惊喜，并就此感到满足。

另外，我还接受了中国青年关于工作内容及女性劳动条件方面的提问，我发现日本与中国在女性的待遇、家庭中的分工、社会体制方面都存在着不同之处，我觉得日本在这方面似乎有点儿落后了。因为时间有限，我们没能更深入地交谈下去，我对话题的背景产生了兴趣，理解了对本文开头所引用的教授讲课内容那段话的含义。

四. 民宿主人的感想

小小外交

新保三枝
（石川县）

这是我第一次接待民宿青年。起初感到非常不安，但当我听到门外传来青年和前去接她的女儿们的说笑声时，心里的不安一下子就云消雾散了。

来我家的青年非常活泼、漂亮，与我们全家一见如故。我们基本上用英语交谈，女儿夹在中间，围着饭桌促膝攀谈，直至深夜。

我想尽可能让她在访问期间多了解一些金泽的文化，加上她本人的愿望，我带她参观了友禅加工过程、武家宅邸、兼六园，并让她试穿了和服等，她对所有这些都充满了兴趣。

庆幸的是巧遇女儿的公公表演能乐。由于剧目很长，所以我们原本考虑中途退场，但没想到她兴趣盎然要坚持看到最后，于是我们也就奉陪到底了。如果她从中有所感受，我将不胜荣幸。

这三天，她那明快的性格使我们过得就像一家人一样。不仅如此，我从她那无论对任何事物都积极进取的精神中学到了很多东西。遇到不解，反复询问直到理解，待理解后，脸上便充满了喜悦。在她那对任何事物都抱有强烈的好奇心和认真学习的态度面前，我只是自愧不如。

她的饭量很小，这使我很担心。但我通过她的饮食生活窥见到了现在中国的生活内容，引起了我对日本丰衣足食的反思。她的粗茶淡饭及勤俭朴素给我留下了深刻印象，我要向她学习。

这三天，我们全家以不同的角度与青年进行了交流，我们感到非常幸福。这次民宿活动使我感到，尽管我们出生的国度不同，但彼此同样作为普通的人手拉着手，这或许只不过是一次小小的外交，但通过这小小的外交扩大了我们的友谊，使我们深切地体会到人类的和平和内心丰富的生活是多么美好！

谢谢。

"饮水思源"，架起中日之间的心灵之桥

竹下里美
（大阪府）

在中日恢复邦交二十五周年这一值得纪念的年度里，我们非常感谢给了我们接待中国青年沈小姐来我家体验民宿生活的机会。这次我家是第二次接待民宿青年，通过这一活动，我深深体会到，尽管我们之间语言不通，但我们的心是完全相通的。

接待青年的活动一经确定，我那还是小学生和中学生的侄女与侄儿两人便商量，用中文制作了表示欢迎的横幅，并为能用中文进行会话而学习中文，看到他们这样满心期待地进行准备，我感到，这些担负着二十一世纪重任的年轻人一定会比我更会将美好的回忆刻在心头，这使我感到非常高兴。

两晚三天的民宿活动是很短暂的，为使沈小姐能尽量接触到日本的文化，侄女请她看了日本舞蹈的录像，并举行了茶道表演会。在中国正在学舞蹈的沈小姐看了侄女在表演会上表演的日本舞蹈非常感动，我们当即将该录像带作为礼物送给了她。

沈小姐非常喜欢做菜，她为我们表演了做水饺，侄子很快掌握了这门手艺，这以后他几次得意地做给家人品尝，我们之间的文化交流实在是非常精彩的。

我听说已故周恩来总理曾经说过"饮水思源"（喝水不忘挖井人），在日本文化中有很多来自中国的灿

烂文化，中国对于日本乃是“文化的大恩人”。我将把这种感激之情牢记心头，今后也继续为日中友好而努力，并且与世界各国的人们进行接触，加深人与人之间的心灵深处的交流。

在此，我谨向给予我宝贵的交流机会的太平洋人材交流中心的各位表示衷心的感谢。

开放在大陆的鲜花

渡边由美子
（德岛县）

王秀君，她恰似开放在大陆的一朵鲜花。活跃在外交官岗位上的小王既有较强的外语能力，又富于修养。这次她作为中国青年代表团的领导深受团员的信赖。

小王向我们介绍了中国的外交及少数民族的情况。在谈到教育问题时，小王和我更是兴致勃勃，我们度过了一段充实而美好的时光。

可是当谈到独生女儿和家庭时，她脸上绽开笑容，又向我们展现出她作为女性的那丰富多采的表情的另一面。

两晚三天的民宿活动非常短暂，但小王她那职业女性的风采以及她那对家人的关怀备至等等，使我们从中学到了很多很多。

我对这次宝贵的体验和与小王美好的相遇由衷地表示感谢。

三．中国初等中等青年教员邀请计划

一、中国初等中等青年教员邀请计划

1-1 概　要

(1) 目　的

"中国初等中等青年教员邀请计划"的目的是，为了面向21世纪，通过中日两国初等中等教育机关和教员的交流，进一步促进青少年之间的交流，增进相互之间的理解和信赖。

(2) 实施方法

A　邀请人数

1999年度一次邀请120名青年

B　邀请对象

在以下各领域里从事领导工作的20～35岁的青年

(i)　小学教员　48名

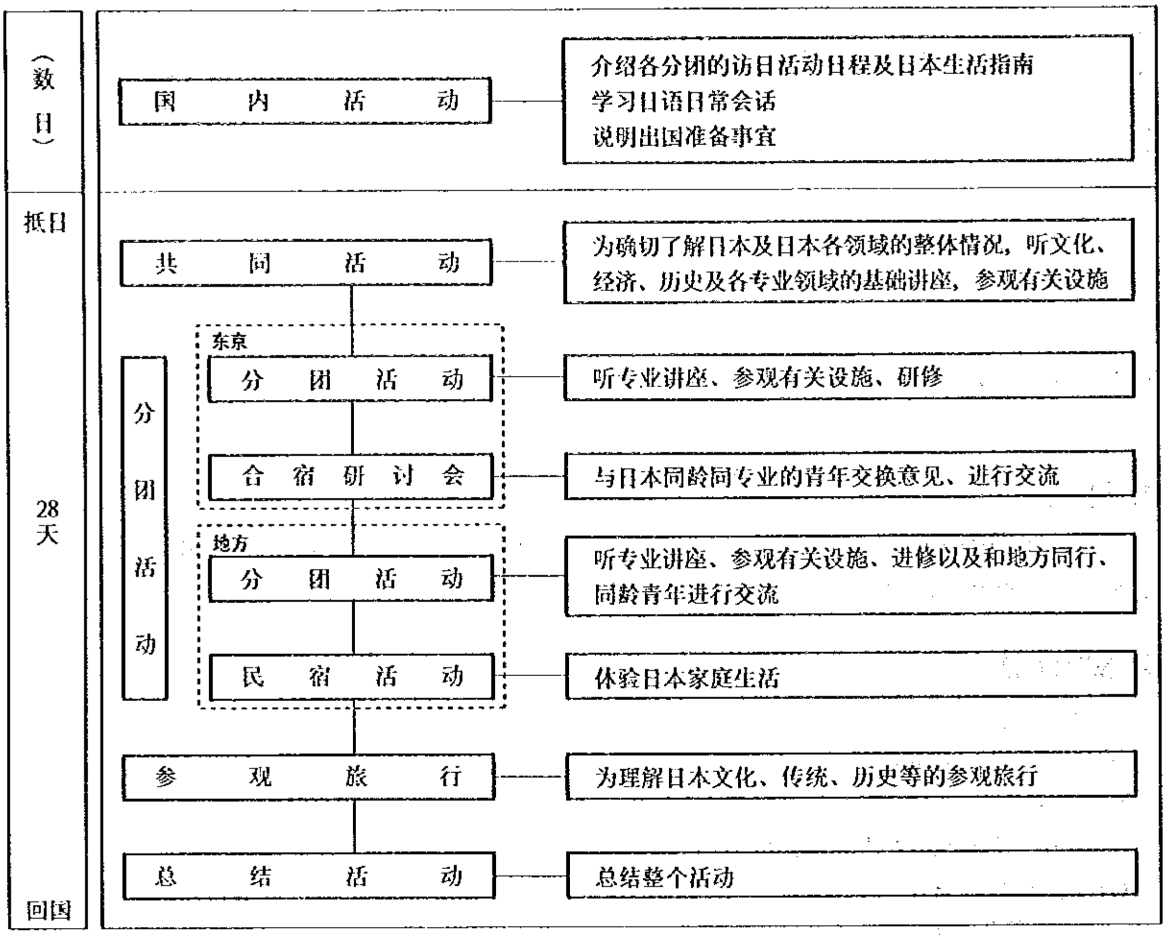
(ii)　中学教员　24名

(iii)　高中教员　48名

C　邀请日期

11月24日～12月21日　28天

(3) 日程概要

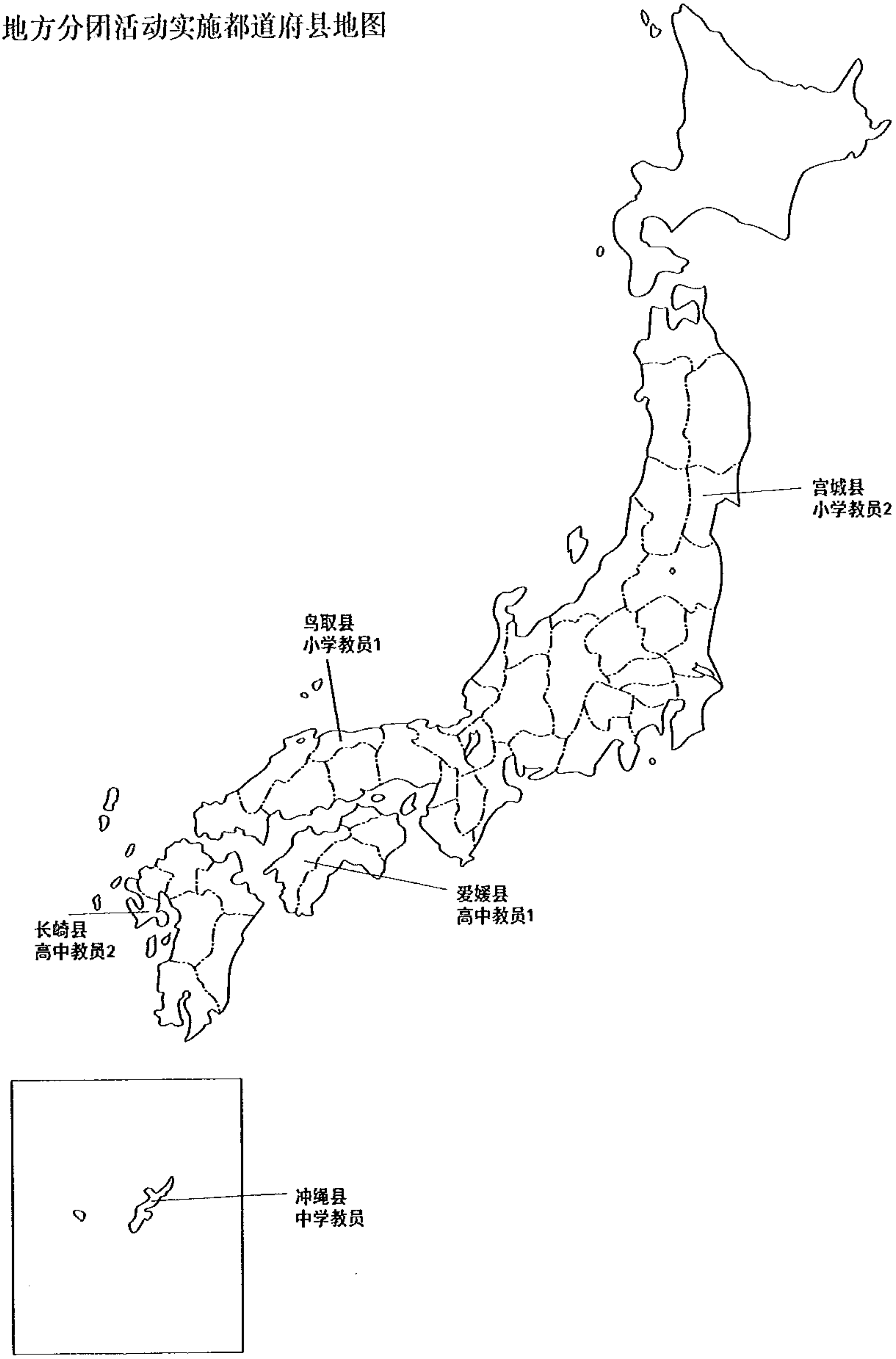


1-2 计划实施情况

分团	人数	实施协助团体	实施都道府县	地方协助团体
小学教员1	24	(社)勤劳厚生协会	鸟取	鸟取青友会
小学教员2	24	(财)日本青年旅舍协会	宫城	宫城县青年旅舍协会
中学教员	24	(社)青少年育成国民会议	冲绳	(社)冲绳县青少年育成县民会议
高中教员1	24	(社)青年海外协力协会	爱媛	爱媛县青年海外协力协会
高中教员2	24	(财)世界青少年交流协会	长崎	长崎县世界青年友好之会

*日本国际协力中心为所有分团安排实施了共同活动和总结活动.

地方分团活动实施都道府县地图



二、应邀青年的感想

富有特色的向小学

李　博
（小学教员第一分团）

十二月二日，我们第一分团的全体成员到浦和市立向小学进行了参观交流。

向小学给我留下了深刻的印象。这是一所富有特色的学校。教室为开放式或半开放式，采用复线型学习方式，扶植每个儿童的特长。学校为了学生能巩固基础，以算术为重点，分几个台阶教学，充分考虑到了学生之间的差异。学校利用良好的设施（媒体俱乐部、舞台、小音乐教室等），积极地开展活动。如利用空间和走廊展示学生的手工艺品等。这些特色，无疑充分调动了学生的学习积极性。所以，在我眼中，向小学的教学质量高，教师勤恳敬业，学生活泼主动，个性充分发挥，是一所富有特色的学校。

难忘的一个月

小学教员第二分团
（小学教员第二分团）

二十八天来，在 JICA 以及宫城县青年旅舍协会的精心安排下，我们参观了国立民族学博物馆、明石海峡大桥、宫城图书馆、仙台科学馆等，听了有关教育史和教育现状的讲座，访问了具有代表性的中小学，观看了学生上课的实况，并与老师进行了交流。参加民宿活动，不仅领略了日本美丽的风光，更重要的是从多种角度、不同层次地了解了日本的教育现状。其中，松岛怡人的风光、仙台人民的淳朴善良、日本青年的活泼热情，都将永远留在我们的记忆之中。高兴之余，不免有些遗憾之处。比如，在大阪的日语学习、东京之行时间太短暂。但这些并没有影响我对这次活动的美好的印象。

日本印象

蓝育新
（中学教员分团）

“发达的经济，高科技含量的教育”，这就是我们所接触到的日本。

在JICA的安排下，我们以教育考察为中心，听取了系列讲座，了解了日本社会及教育的现状；参观了明石大桥、原子弹爆炸纪念馆、海洋博览公园等颇具代表性的景点；参观了冲绳教育中心、JICA冲绳研修中心系列教育设施等等，在深切感受到日本经济发展的同时，感受到日本教育的发展。一流的教育设施、先进的科学技术，反映出日本人“富国强民必先振兴教育”的战略意识。颇值得一提的合宿、民宿交流活动，使我们走进日本家庭，走进日本人的生活。尤其是冲绳人的热情、纯朴，给我们留下了难以磨灭的印象。

增进了解　加深友谊

张爱民
（高中教员第一分团）

这次在日本的研修访问活动，使我感到收获很大。通过在日本各地的参观和讲座，我们对日本的国情，特别是教育状况有了比较深入的了解。在参观学校以及与日本青年的合宿活动中，我们也接触到了许多日

本的中学教师，大家就两国教育方面的问题进行了广泛的交流与沟通。我们都认为，虽然两国的国情不同，在教育方面所面临的问题也不尽相同，但彼此都有可以相互学习和借鉴之处，因而增进相互之间的了解是非常必要的。在交流过程中，中日两国青年在短短的时间里就成了好朋友。另外，在爱媛县的民宿活动中，我们住进了日本普通百姓的家里，体验到了日本人的生活，并与所在家庭建立了深厚的友谊。这也成为一段极其难忘的经历。

关注内心　面向未来

江　汇

（高中教员第二分团）

无论在中国和日本，我都喜欢见到的每一棵自然生长的树。我在远离大城市的日本许多地方，看到有许多人就保持着树一般的自然状态。印象深刻的是手工艺家水野先生，还有民宿地鹿町町纯朴友好的人们。他们与山川和谐地融为一体，他们所拥有的开放平和的心态使我们之间的对话成为可能。我曾在鹿町中学做过简短的唐诗解说，感觉学生未能完全理解字句背后的东西，但我相信日本教师的努力和探索。在中国，以古典文学培养孩子的健全的情感、良好的人性，是许多家长和教师的成功之处．每门科学以及艺术，在深层上都与人的内心有关，我衷心祝愿中日教师都为人类文明做出贡献。

三. 参加合宿研讨会的日本青年的感想

再　见

井田久雄
（教师）

此次我有机会与中国的老师们共同参加合宿活动。这些老师们在中国都是重点学校（所谓尖子学校）的老师，然而他们却都是非常友好、和蔼可亲的。他们无论是在讨论、还是在打球或是唱歌的时候始终都非常认真。我似乎从中也看到了他们的生活态度以及对待教育的姿态。经过交谈，我意外地发现我们互相对对方国家的教育情况其实并不了解。这令我不由得想到，不单纯局限于教育，我们应该创造机会了解各种各样的国家。此次合宿交流虽然只有三天，但这并不意味着结束，我已经开始设想有那么一天与其他日本青年一起踏上中国大地去与我们的中国朋友们再相会。

国际标准

平野宏司
（教师）

“棉花堆里打拳，白费力气”。在12月4日至6日的与中国高校教师代表团的合宿研讨会上，一位日方人员用这句话形容与中方的讨论。据他介绍，日方教育工作者对日本所存在的“拒绝上学”、“班级崩溃”等现象做了热心的说明，但中方却未能完全理解问题的实质。他苦笑道，中国老师说，只要拉着拒绝上学孩子的胳膊，把他带到学校去就是了。当然，日方是否用恰当的语言（或用图表）向中方人员进行了说明是一个疑问，同时，中方在参加研讨会之前是否具备了有关世界各国教育问题以及社会背景等知识也无从得知。在国际会议上，用自己国家所特有的发言方法、概念都是不起作用的。我再次体会到，在国际标准得到十分重视的今天，要想与世界各国的人们进行广泛的交流，其前提是要对每个社会的文明、文化以及参加国际会议的方法有所了解，这是这个时代对我们的要求。

我们立刻成了好朋友

风野亚雅
（教师）

虽然只有二晚三天的合宿研讨会，却使我们一下子成了好朋友。

日本和中国虽说是邻国，我还是觉得，我们之间在历史、生活、文化等方面还有许多未知的东西。我怀着这样的心情，对这次研讨会会达到什么样的气氛起初是有些忐忑不安的。然而教师这一共同的职业缩短了我们之间的距离。中国教师的笑容、积极主动与我们交流的姿态、他们的多才多艺是那么充满魅力！他们浑身洋溢着自信与热情，我们日方也不甘落后，就在这种相乘效果的作用下交流日程气氛热烈。虽然相聚的时间是如此短暂，而我们在最后分手之时却成了挥泪道别的好友。我感到这主要是缘于中国教师的团结和参与精神以及强烈的进取精神。我们日本教师也得想办法增加自己的魅力啊！

四. 民宿主人的感想

鲜花盛开于我心中

池原澄江
（冲绳县）

我家收到了20世纪最厚的一份礼物，那就是和小惠一起渡过的二晚三天的民宿活动。以前通过报纸等媒介的介绍，经常接触到“国际交流”、“国际社会”等词汇，可总觉得与自己无缘。也许是因为冲绳是个乡下地方、信息少的关系吧。在恩纳村的亲朋好友的欢迎之中，我们通过笔谈以及手势的交流很快就融洽起来，气氛变得亲切而友好。这可能是小惠那热情的性格与笑脸与我们岛上人的气质非常相似的缘故吧。我们曾一起漫步于绿林繁茂的恩纳岳、琉球石灰岩的万座毛。分别的那一天我的眼泪止不住地流淌，我为这段难忘的相逢相识而感动，任凭海风吹打着我的脸。我的朋友，我们生活在同一个地球，我希望能够再相逢！感谢冲绳县民青少年育成会议以及其他有关方面的各位，鲜花将一直盛开在我心中。

相约重逢

古志谷恭子
（鸟取县）

在中国做音乐教师的阎小姐是一位活泼而充满魅力的女性。

我们全家盼望已久的乐事之一，就是与她一起开一个热闹的音乐会。我们围着钢琴举行了这一名为“中日小型音乐会”的演奏会。她为我们弹奏了“北国之春”以及中国的名曲“梁祝”，我的大女儿在旁用长笛为她伴奏，人们常说音乐是没有国界的，我为她那专注的神态所感动，我从她身上感受到来自中国的蓬勃的朝气。

我们通过笔谈对流行以及恋爱等话题进行了交流，她一直不知疲倦地与我们交流着。我们还一起观光、购物，并拍摄了很多留念的照片。

分别总是令人神伤的，她的眼里滚淌着大颗的泪珠，她拼命地忍着。我的二女儿解下自己的围巾轻轻地替她系上。

我们保存着她用日文写的感谢信，在信中她热切地盼望着与我们重逢．我们相约重逢！

来自邻国

佐佐木裕美子
（宫城县）

再来！再见！我们紧紧拥抱，流着泪互道珍重。

来我家体验二晚三天的民宿活动的客人王小姐来自中国，她积极地融入了我们的家庭，同时也将中国的文化介绍给我们。我们一起泡在露天温泉里，仰望星空，互相学习语言，留下一片欢声笑语，这一切如今成了我们珍贵的回忆。我们既想让她在家好好休息，又想带她上好多地方去参观，而三天的时间对我们来说实在是太匆忙了。在我们举办的家庭晚会上，在仙台的中国青年五十多人聚到了一起，我们一直畅谈至深夜．虽然我们大多只能靠笔谈，可我们的心却如此相通。我的中国女儿、小王！感谢你给了我这么多快乐的回忆。

实施情况等资料

1. 迄今为止实施的青年邀请计划一览表

(1) 新中日青年友谊计划

●1995年度（98名）

分　　团	人数	实施协助团体	实施都道府县	地方协助团体
青年工作者	25	日本青年团协议会	冈　山	(财)冈山县青年馆
青年职工	25	(社)日本经济青年协议会	三　重	三重县联合青年团
公务员	23	(社)国际交流服务协会	长　崎	(财)长崎县国际交流协会
教员	25	(社)日本教科文协会联盟	福　岛	福岛教科文协会

●1996年度（100名）

分　　团	人数	实施协助团体	实施都道府县	地方协助团体
青年工作者	25	(财)日本青年旅舍协会	宫　城	宫城县青年旅舍协会
经济	25	(社)日本经济青年协议会	长　崎	长崎县世界青年友好之会
公务员	25	(财)青年工作者能力开发协会	福　井	武生市国际交流协会
教员	25	(财)日本国际协力中心	兵　库	(财)兵库县青少年本部

●1997年度（100名）

分　　团	人数	实施协助团体	实施都道府县	地方协助团体
青年工作者	25	(财)日本青年旅舍协会	宫　城	宫城县青年旅舍协会
经济	25	(社)日本经济青年协议会	德　岛	德岛县日中青年交流协会
公务员	25	(财)青年工作者能力开发协会	岩　手	(财)岩手县国际交流协会
教员	25	(社)国际交流服务协会	枥　木	(财)枥木县青年会馆

●1998年度（100名）

分　　团	人数	实施协助团体	实施都道府县	地方协助团体
青年工作者	25	(社)青少年育成国民会议	冲　绳	(社)冲绳县青少年育成县民会议
经济	25	(财)青年工作者能力开发协会	石　川	小松市国际交流协会
公务员	25	(财)世界青少年交流协会	德　岛	德岛县日中青年交流协会
教员	25	(社)国际交流服务协会	富　山	(财)富山国际中心

●1999年度（100名）

分　　团	人数	实施协助团体	实施都道府县	地方协助团体
青年工作者	25	(社)青少年育成国民会议	大　阪	(财)大阪府青少年活动财团
经济	25	(财)青年工作者能力开发协会	富　山	(财)富山国际中心
公务员	25	(财)日本青年旅舍协会	三　重	(财)三重县国际交流财团
教员	25	(财)日本友爱青年协会	德　岛	德岛县青年海外派遣之会

※日本国际协力中心为所有分团安排实施了共同活动和总结活动.

(2) 新中国基层工作人员邀请计划

● 1995年度（99名）

分　　团	人数	实施协助团体	实施都道府县	地方协助团体
产业基础设施建设	25	（财）日本青年旅舍协会	鸟　取	鸟取青友会
经济开发	24	（社）勤劳厚生协会	爱　媛	（财）爱媛县国际交流协会
地区振兴	25	（财）世界青少年交流协会	香　川	香川县海外派遣朋友会
人材培养	25	（社）青少年育成国民会议	冲　绳	（社）冲绳县青少年育成县民会议

● 1996年度（100名）

分　　团	人数	实施协助团体	实施都道府县	地方协助团体
产业基础设施建设	25	（财）世界青少年交流协会	山　口	世界青年德山朋友之会
经济开发	25	（社）勤劳厚生协会	枥　木	枥木县外国青年邀请事业实行委员会
地区振兴	25	（财）日本国际协力中心	鸟　取	鸟取青友会
人材培养	25	（社）青年海外协力协会	冲　绳	（社）冲绳县青少年育成县民会议

● 1997年度（100名）

分　　团	人数	实施协助团体	实施都道府县	地方协助团体
产业基础设施建设	25	（财）世界青少年交流协会	兵　库	（财）兵库县青少年本部
经济开发	25	（社）勤劳厚生协会	鸟　取	鸟取青友会
地区振兴	25	（社）青年海外协力协会	北海道	十胜国际协会
人材培养	25	（财）青年工作者能力开发协会	冲　绳	（社）冲绳县青少年育成县民会议

● 1998年度（100名）

分　　团	人数	实施协助团体	实施都道府县	地方协助团体
产业基础设施建设	25	（财）日本国际协力中心	冈　山	（财）冈山县国际交流协会
经济开发	25	（社）勤劳厚生协会	三　重	（财）三重县国际交流财团
地区振兴	25	（财）世界青少年交流协会	长　崎	长崎县世界青年朋友会
人材培养	25	（财）青年工作者能力开发协会	北海道	十胜国际协会

● 1999年度（100名）

分　　团	人数	实施协助团体	实施都道府县	地方协助团体
人材培养	25	（社）青少年育成国民会议	石　川	（财）石川县青年旅舍协会
经济开发	25	（社）勤劳厚生协会	大　阪	（财）太平洋人材交流中心
地区振兴	25	（财）青年工作者能力开发协会	德　岛	德岛日中青年交流协会
产业基础设施建设	25	（社）国际善邻协会	滋　贺	滋贺县青年团体联合会

※日本国际协力中心为所有分团安排实施了共同活动和总结活动.

(3) 中国初等中等青年教员邀请计划

● 1999年度（120名）

分　　团	人数	实施协助团体	实施都道府县	地方协助团体
小学教员1	24	（社）勤劳厚生协会	鸟　取	鸟取青友会
小学教员2	24	（财）日本青年旅舍协会	宫　城	宫城县青年旅舍协会
中学教员	24	（社）青少年育成国民会议	冲　绳	（社）冲绳县青少年育成县民会议
高中教员1	24	（社）青年海外协力协会	爱　媛	爱媛县青年海外协力协会
高中教员2	24	（财）世界青少年交流协会	长　崎	长崎县世界青年友好之会

※日本国际协力中心为所有分团安排实施了共同活动和总结活动.

2. 1999年度青年邀请计划实施情况一览表

邀请日期	国　家	领　域	人数	实施协助团体	实施都道府县
5月12日 ～ 6月8日 第1批 46名	泰国 泰国	教员 农业	23 23	(社)国际交流服务协会 日本青年团协议会	山　梨 冈　山
5月12日 ～ 6月8日 第2批 75名	菲律宾 菲律宾 菲律宾	教员 农业 经济经营	23 23 29	(财)日本青年旅舍协会 (财)岩手县国际交流协会 (社)勤劳厚生协会	群　马 岩　手 栃　木
5月19日 ～ 6月15日 第3批 30名	巴布亚新几内亚 巴布亚新几内亚	教员 公务员	20 10	(社)日本经济青年协议会 (社)青年海外协力协会	石　川 奈　良
5月19日 ～ 6月15日 第4批 100名	中国 中国 中国 中国	青年工作者 经济 公务员 教员	25 25 25 25	(社)青少年育成国民会议 (财)青年工作者能力开发协会 (财)日本青年旅舍协会 (财)日本友爱青年协会	大　阪 富　山 三　重 德　岛
5月26日 ～ 6月22日 第5批 92名	马来西亚 马来西亚 印度尼西亚 印度尼西亚	教员 农业 教员 农业	25 21 23 23	(社)国际交流服务协会 (财)世界青少年交流协会 (社)勤劳厚生协会 (社)青年海外协力协会	福　井 秋　田 山　形 福　冈
6月23日 ～ 7月20日 第6批 40名	菲律宾 菲律宾	行政 地区振兴	20 20	(财)世界青少年交流协会 (社)日本经济青年协议会	茨　城 北海道
6月30日 ～ 7月27日 第7批 97名	东盟多国团 东盟多国团 东盟多国团 东盟多国团	教育 经济 保健卫生 社会福利	24 25 24 24	(社)日本国际生活体验协会 (社)青少年育成国民会议 (财)国际看护交流协会 (财)札幌国际广场	埼　玉 福　冈 爱　知 北海道
7月7日 ～ 8月3日 第8批 100名	韩国 韩国 韩国 韩国	青年工作者、公务员 青年职工（事务人员） 教员（高级中学） 学生（人文、社会）	25 25 25 25	(社)青少年育成国民会议 (社)勤劳厚生协会 (财)日本青年旅舍协会 (财)世界青少年交流协会	香　川 大　分 新　潟 北海道
7月14日 ～ 8月10日 第9批 49名	越南 越南	经济 农业	24 25	(财)日本国际协力中心 (社)青年海外协力协会	爱　媛 和歌山
7月14日 ～ 8月10日 第10批 92名	东盟多国团 东盟多国团 东盟多国团 老挝	科学技术 环境保护 公共公益事业 地区开发	24 24 24 20	(财)丰川市国际交流协会 (社)日本经济青年协议会 (社)国际交流服务协会 (财)高知县国际交流协会	爱　知 北海道 岐　阜 高　知
8月18日 ～ 9月14日 第11批 40名	孟加拉国 巴基斯坦	保健医疗 公务员（开发部门）	20 20	(财)国际看护交流协会 (社)青年海外协力协会	岛　根 香　川
9月23日 ～ 10月20日 第12批 29名	斯里兰卡 不丹、马尔代夫 尼泊尔	教育 教育 教育	10 10 9	(财)爱知县国际交流协会 (财)日本国际协力中心 (社)驹根青年会议所	爱　知 佐　贺 长　野
10月13日 ～ 11月9日 第13批 100名	中国 中国 中国 中国	人材培养 经济开发 地区振兴 产业基础设施建设	25 25 25 25	(社)青少年育成国民会议 (社)勤劳厚生协会 (财)青年工作者能力开发协会 (社)国际善邻协会	石　川 大　阪 德　岛 滋　贺

邀请日期	国　　家	领　　域	人数	实施协助团体	实施都道府县
11月3日 ～ 11月30日 第14批 50名	柬埔寨 沙特阿拉伯	经济 教育	30 20	(财)日本青年旅舍协会 (社)青年海外协力协会	北海道 冈　山
11月10日 ～ 12月7日 第15批 75名	非洲 法语国家分团 法语国家分团 法语国家分团	 女教员 理数科教员 保健卫生	 24 25 26	 (财)世界青少年交流协会 (财)大阪府国际交流财团 (财)日本国际协力中心	 青　森 大　阪 冈　山
11月17日 ～ 12月14日 第16批 50名	印度 缅甸	教育（理数科教员） 教育	30 20	(财)世界青少年交流协会 (社)日本UNESCO协会连盟	北海道 神奈川
11月24日 ～ 12月21日 第17批 56名	太平洋多国团 太平洋多国团 斐济	公务员 教员 公务员	22 22 12	(社)日本经济青年协议会 (社)日本国际生活体验协会 (财)日本国际协力中心	山　口 山　口 兵　库
11月24日 ～ 12月21日 第18批 120名	中国 中国 中国 中国 中国	小学教员1 小学教员2 中学教员 高中教员1 高中教员2	24 24 24 24 24	(社)勤劳厚生协会 (财)日本青年旅舍协会 (社)青少年育成国民会议 (社)青年海外协力协会 (财)世界青少年交流协会	鸟　取 宫　城 冲　绳 爱　媛 长　崎
1月12日 ～ 2月8日 第19批 69名	泰国 泰国 泰国	经济经营 行政 地区振兴	23 23 23	(社)勤劳厚生协会 (社)国际交流服务协会 (财)世界青少年交流协会	爱　知 鹿儿岛 兵　库
1月12日 ～ 2月8日 第20批 51名	越南 越南	教育 公务员	26 25	(财)青年工作者能力开发协会 (财)日本国际协力中心	宫　崎 千　叶
1月19日 ～ 2月15日 第21批 35名	中亚洲多国团 蒙古	经济 地方行政官	25 10	(财)日本青年旅舍协会 (财)世界青少年交流协会	北海道 福　岛
1月19日 ～ 2月15日 第22批 54名	中南美多国团 中南美多国团	社会福利 教员	28 26	(社)青年海外协力协会 (社)日本国际生活体验协会	熊　本 冲　绳
1月26日 ～ 2月22日 第23批 68名	印度尼西亚 印度尼西亚 印度尼西亚	经济经营 行政 地区振兴	23 23 22	(社)日本经济青年协议会 (社)青少年育成国民会议 (社)勤劳厚生协会	静　冈 福　岛 福　冈
2月2日 ～ 2月29日 第24批 69名	非洲 英语国家分团 英语国家分团 英语国家分团	 女教员 理数科教员 保健卫生	 24 23 22	 (财)青年工作者能力开发协会 (社)青年海外协力协会 (社)青少年育成国民会议	 京　都 北海道 静　冈
2月9日 ～ 3月7日 第25批 68名	马来西亚 马来西亚 马来西亚	经济经营 行政 地区振兴	21 25 22	(社)国际交流服务协会 (财)日本青年旅舍协会 (财)世界青少年交流协会	广　岛 广　岛 富　山
合计	73个分团 107个国家及地区 1,655名	柬埔寨（30名），印度尼西亚（149名），老挝（34名），马来西亚（149名），缅甸（20名），菲律宾（150名），泰国（150名），越南（115名），太平洋14国家及地区（86名），中国（320名），韩国（100名），西南亚洲7国（99名），蒙古（10名），非洲49国（144名），中南美20国（54名），沙特阿拉伯（20名），中亚洲（25名）			

青年招へい事業　—中国—　[交流レポート]（1999）
平成12年3月31日
発行　国際協力事業団国内事業部研修業務課
〒151-8558 東京都渋谷区代々木2丁目1-1
新宿マインズタワー
電話　(03)5352-5401～3
編集　(財)日本国際協力センター国際交流部
〒163-0489 東京都新宿区西新宿2-1-1
新宿三井ビル15F
電話　(03)5322-2571
無断転載を禁じます。

JICA

Japan International Cooperation Agency

国際協力事業団